

阿賀野川水系流域懇談会 下流部会（第1回）

議 事 次 第

平成 21 年 6 月 1 日（月） 14:00 ～ 16:00
新潟市万代市民会館 3 階 307・308 会議室

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 出席者の紹介
- 4 規約（案）について
- 5 部会長の選出について
- 6 議事
 - ① 自治体からの意見聴取結果について
 - ② 住民からの意見聴取実施報告について
 - ③ 現状と課題及び対応案について
 - ④ その他
- 7 閉 会

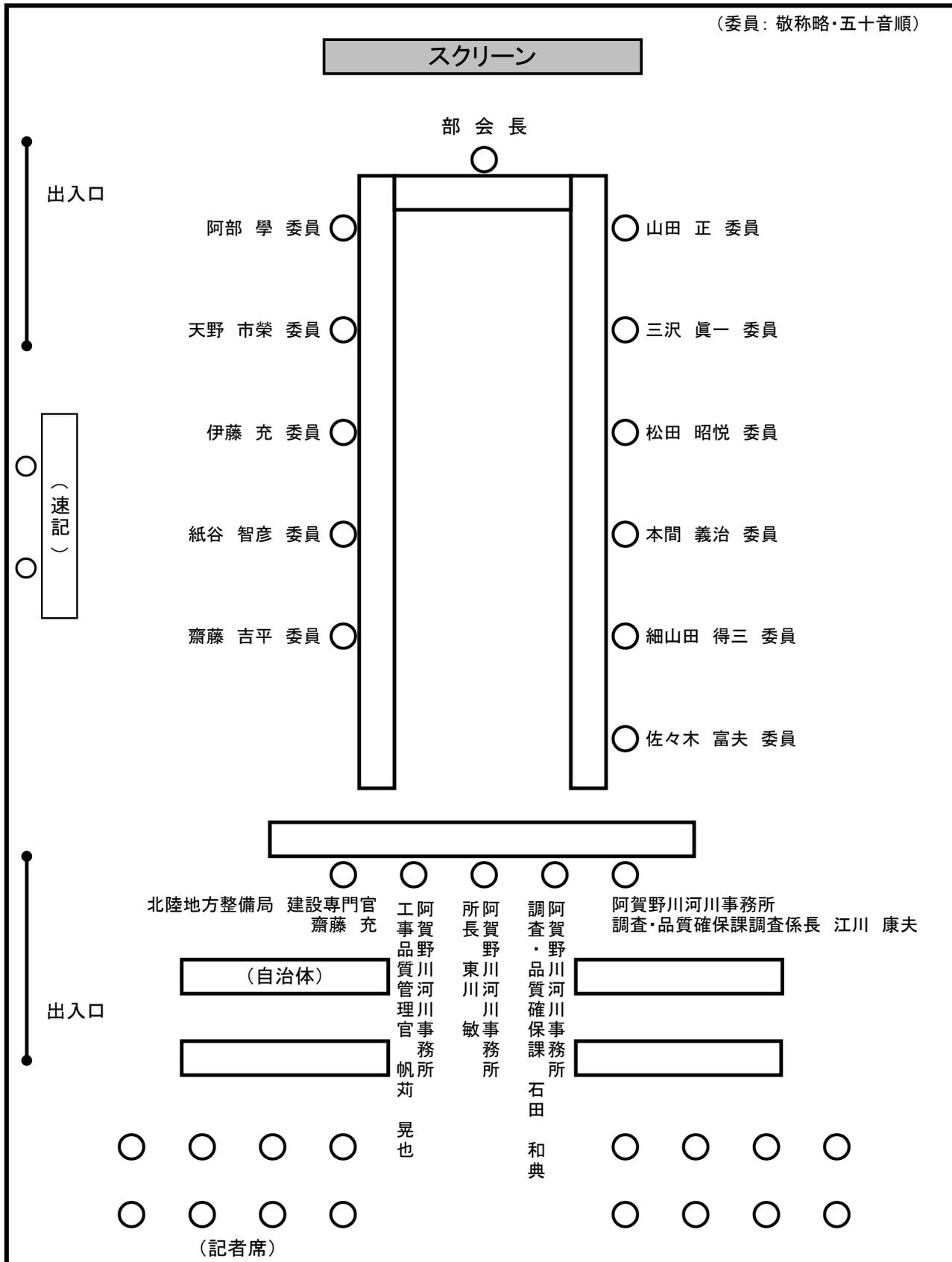
配付資料リスト

- 資料－1 議事次第
 - 資料－2 座席図
 - 資料－3 阿賀野川水系流域懇談会下流部会規約（案）
 - 資料－4 自治体職員（阿賀野川沿川）からの意見聴取結果について
 - 資料－5 地域住民（阿賀野川沿川等）からの意見聴取結果について
 - 資料－6 阿賀野川水系河川整備計画（阿賀野川関係）課題への対応案
- 参考資料 第2回阿賀野川水系流域懇談会（平成20年11月20日）配付資料
- ・今後の流域懇談会の進め方について
 - ・住民への意見聴取方法について
 - ・流域の現状と課題を踏まえた今後の議論の進め方について

阿賀野川水系流域懇談会下流部会(第1回) 座席図

日時:平成21年6月1日(月) 14:00~16:00
 場所:新潟市万代市民会館 3階307・308会議室

(委員: 敬称略・五十音順)



第1回 阿賀野川水系流域懇談会 下流部会 出席者

日時：平成21年6月1日（月）14:00～16:00

場所：新潟市万代市民会館

(敬称略・五十音順 平成21年4月1日現在)

氏名	所属・役職	出欠
阿部 學	日本猛禽類研究機構 理事長	○
天野 市榮	阿賀野川治水協会 会長	○
伊藤 充	新潟市立新潟小学校 校長	○
鹿島 武司	新潟県内水面漁業協同組合連合会 専務理事	
紙谷 智彦	新潟大学 農学部 教授	○
齋藤 吉平	麒麟山酒造(株) 代表取締役会長	○
佐々木 富夫	元) 新津市消防団 団長	○
清水 重蔵	日本写真家協会 会員	
永山 庸男	新潟大学 技術経営研究科 教授	
細山田 得三	長岡技術科学大学 工学部 准教授	○
本間 義治	新潟大学 名誉教授	○
松田 昭悦	阿賀用水右岸土地改良区連合 理事長	○
三沢 眞一	新潟大学 農学部 教授	○
山田 正	中央大学 理工学部 教授	○
渡辺 英美子	新潟日報社 販売事業本部 読者ふれあい部長兼編集局編集委員	

阿賀野川水系流域懇談会 下流部会 規約（案）

（目的）

第1条 この規約は、阿賀野川水系流域懇談会（以下「懇談会」という。）第4条第3項に基づき設置する下流部会に関する事項を定めるものである。

（審議内容）

第2条 部会は、阿賀野川河川事務所が管理する大臣管理区間における河川整備計画の内容に関する事項を審議する。

（組織等）

第3条 部会は、原則として別表に掲げる委員（以下「委員」という。）で組織するが、これ以外の懇談会委員も参加して意見を述べることができるものとする。

（部会長）

第4条 部会には部会長を置くこととし、委員の互選によりこれを定める。
2 部会長は部会の委員の意見を集約する。

（会議）

第5条 会議は、部会長が議長となり、議事を運営する。
2 会議は委員の半数以上の出席をもって成立する。

（懇談会への報告）

第6条 部会長は、部会での検討結果を懇談会に報告するものとする。

（規約の改正）

第7条 本規約の改正は部会の委員総数の3分の2以上の同意を得てこれを行うものとする。

附則（施行期日）

この規約は、平成 年 月 日より施行する。

別表

阿賀野川水系流域懇談会 下流部会 名簿

(敬称略・五十音順 平成21年4月1日現在)

氏名	所属・役職	分野
阿部 學	日本猛禽類研究機構 理事長	自然環境（鳥類）
天野 市榮	阿賀野川治水協会 会長	地域社会
伊藤 充	新潟市立新潟小学校 校長	歴史・文化・文芸・教育
鹿島 武司	新潟県内水面漁業協同組合連合会 専務理事	内水面漁業
紙谷 智彦	新潟大学 農学部 教授	自然環境（植物）
齋藤 吉平	麒麟山酒造(株) 代表取締役会長	観光・地域経済
佐々木 富夫	元)新津市消防団 団長	防災・危機管理
清水 重蔵	日本写真家協会 会員	地域づくり
永山 庸男	新潟大学 技術経営研究科 教授	経営学
細山田 得三	長岡技術科学大学 工学部 准教授	河川工学
本間 義治	新潟大学 名誉教授	自然環境（魚介類）
松田 昭悦	阿賀用水右岸土地改良区連合 理事長	農業水利
三沢 眞一	新潟大学 農学部 教授	農業土木
山田 正	中央大学 理工学部 教授	河川工学
渡辺 英美子	新潟日報社 販売事業本部 読者ふれあい部長兼編集局編集委員	歴史・文化・文芸・教育



自治体職員（阿賀野川沿川）からの 意見聴取結果について

平成21年6月1日
国土交通省 北陸地方整備局

自治体職員からの意見聴取について

新潟市

日時 : 平成21年1月7日(水) 15:30~
場所 : 新潟市役所内
参加者 : 新潟市土木部 土木総務課河川対策室3名

五泉市

日時 : 平成21年1月8日(木) 13:30~
場所 : 五泉市役所内
参加者 : 五泉市都市整備課 8名

阿賀野市

日時 : 平成21年1月9日(金) 11:00~
場所 : 阿賀野市役所内
参加者 : 阿賀野市建設課 3名

自治体職員の阿賀野川河川整備計画策定に関するご意見

- ・渡場床固改築については、阿賀野川治水協会としてこれまでも要望してきている。
- ・咲花温泉付近では、土地等の制約があつて堤防を上げる余地がほとんど無いが、どうなるのか。
- ・上流(阿賀川)の整備により増える流量は咲花地区にも及ぶのか。
- ・阿賀野川頭首工より下流の川幅が広がると、それより上流の川そのものが変わってしまうのではないか。
- ・阿賀野川左岸の弱小堤については、早急に完成堤にして欲しい。
- ・今回の整備計画では、早出川はどのような計画になるのか。



地域住民(阿賀野川沿川等)からの 意見聴取結果について

平成21年6月1日
国土交通省 北陸地方整備局

地域住民を対象とした意見聴取について

検討着手段階

- ・今後の整備計画策定の取り組みについて住民へ知らせる。
- ・今後の阿賀野川の「川づくり」に対する幅広い意見をもらう。
→課題、議論の方向性について骨子策定時の参考とする。

★実施内容

- ・住民説明会等での意見交換
- ・住民説明会等でのアンケート実施
- ・事務所ホームページでのアンケート実施
- ・記者発表、自治体広報誌への掲載

地域住民を対象とした意見聴取について

住民説明会等の実施

●阿賀野市会場

- 開催日時 平成21年2月12日(金) 18:30~
- 場 所 阿賀野市役所 第一多目的ホール
- 内 容 ①河川整備基本方針、河川整備計画について
②阿賀野川の現状と課題



阿賀野市会場

日本海

← 阿賀野川

【阿賀野市 会場】

【新潟市江南区 会場】

●新潟市江南区会場

- 開催日時 平成21年1月18日(日)
- 場 所 江南区横越健康センター
- 内 容 講演会「阿賀に学ぶ」
※河川整備計画についても説明

【新潟市秋葉区 会場】

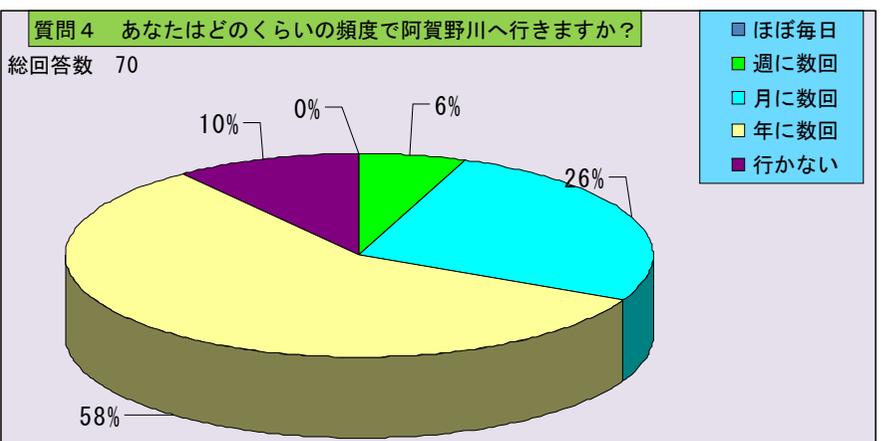
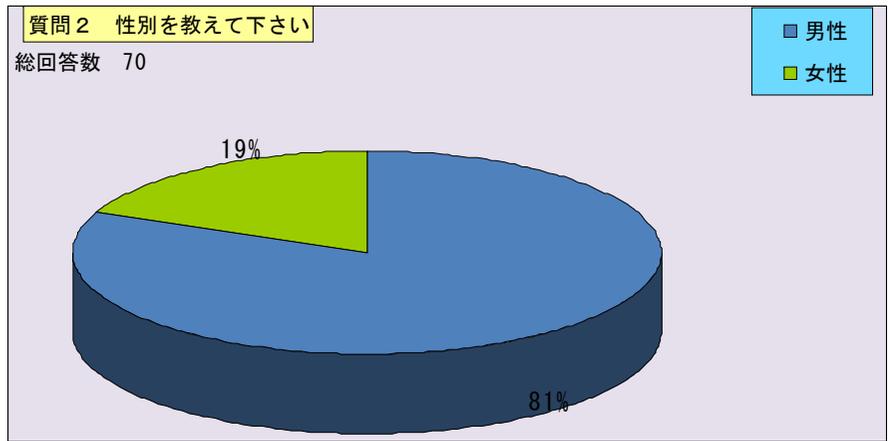
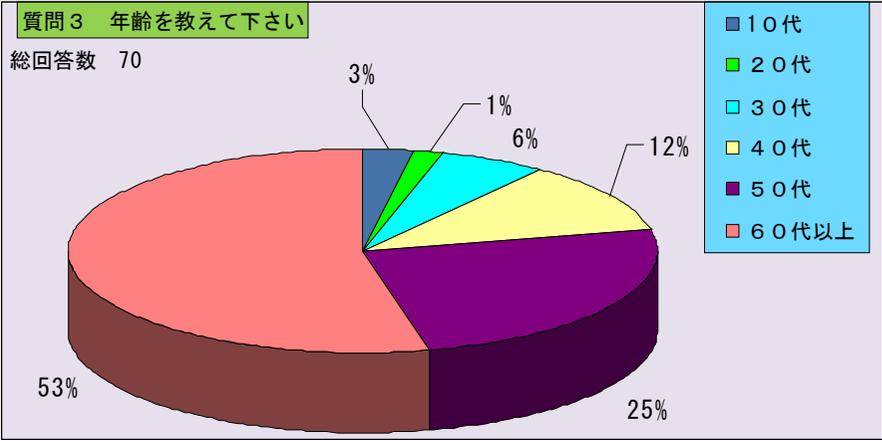
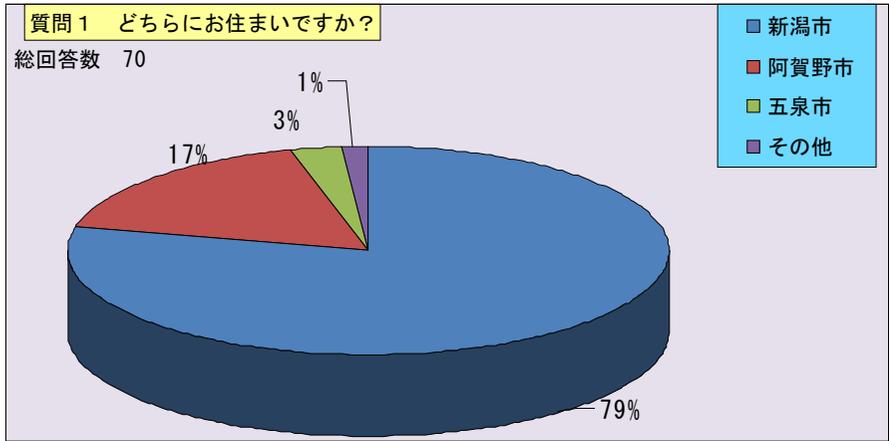


新潟市秋葉区会場

●新潟市秋葉区会場

- 開催日時 平成21年2月13日(金) 18:30~
- 場 所 新津地区市民会館 第一会議室
- 内 容 ①河川整備基本方針、河川整備計画について
②阿賀野川の現状と課題

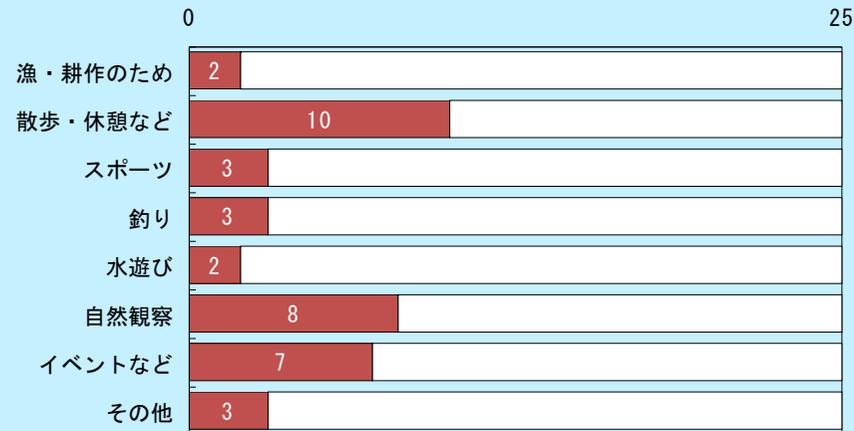
アンケートの集計結果



アンケートの集計結果

質問5 あなたが川を利用する目的は何ですか？

総回答数 38



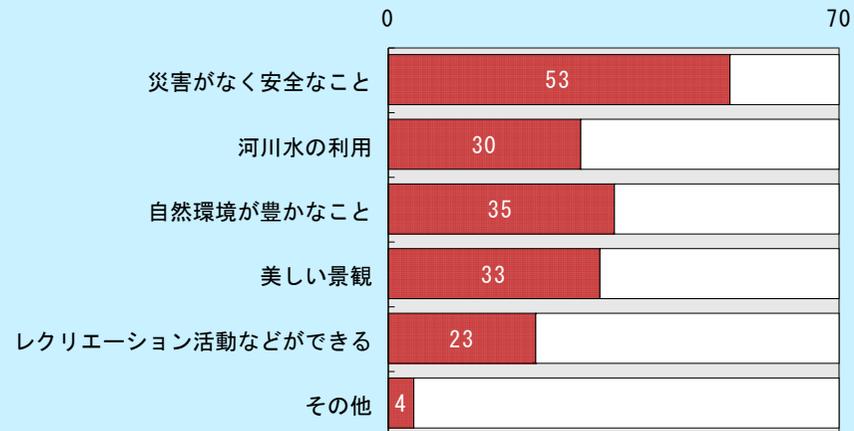
質問8 治水対策として、河川事務所で次のような課題を考えていますが、あなたが重要だとおもうことは何ですか？

回答総数 52



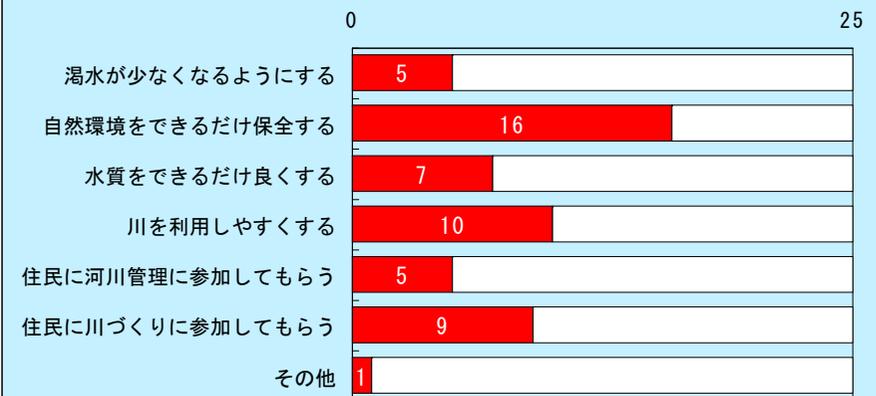
質問6 あなたが川に求めるものは何ですか？

総回答数 178

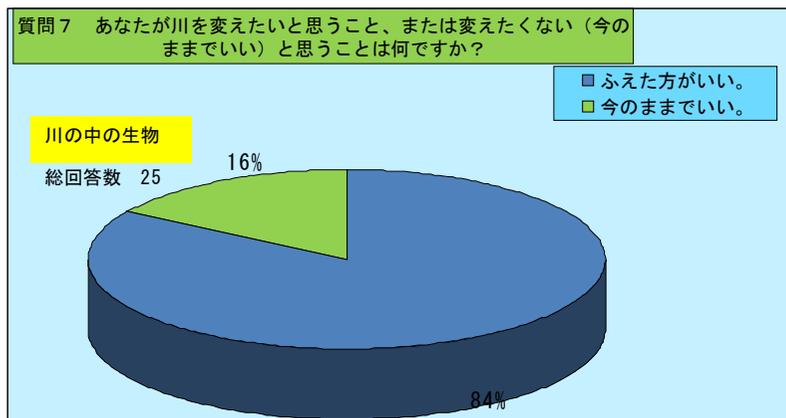
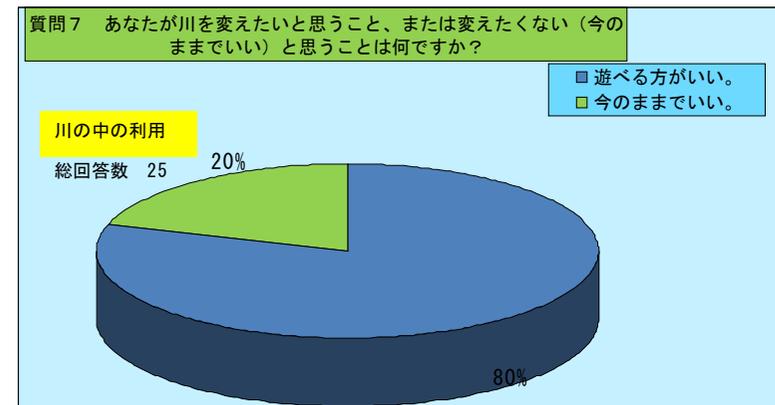
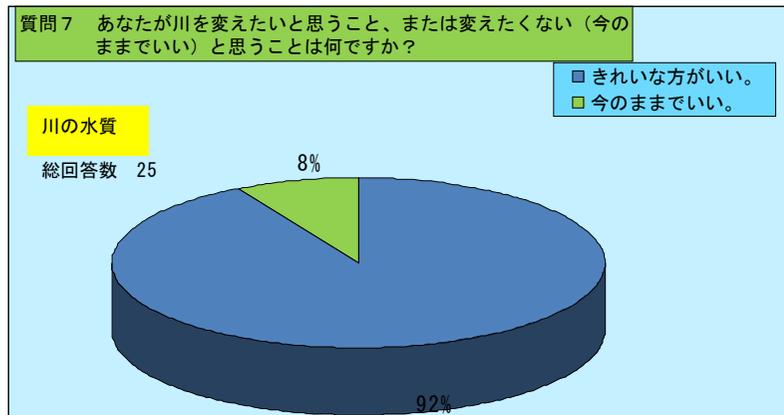
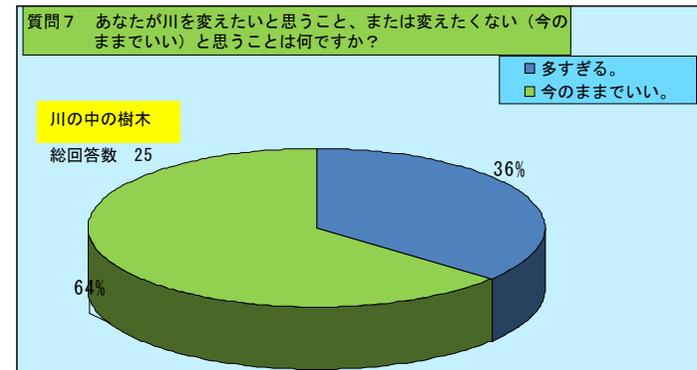
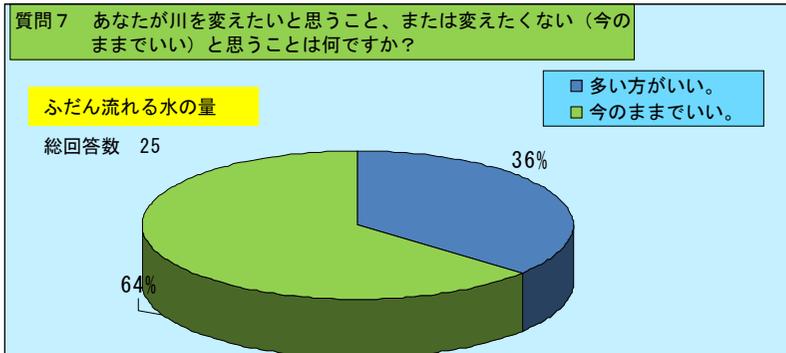


質問9 河川利用や環境について、河川事務所では次のような課題を考えていますが、あなたが重要だと思う事は何ですか？

回答総数 53



アンケートの集計結果



質問7 あなたが川を変えたいと思うこと、または変えたくない（今のままでいい）と思うことは何ですか？（どちらかに○をつけてください。）

- ①: ふだん流れる水の量 (1: 多い方がいい。 2: 今のままでいい。)
- ②: 川の水質 (1: きれいな方がいい。 2: 今のままでいい。)
- ③: 川の中の樹木 (1: 多すぎる。 2: 今のままでいい。)
- ④: 川の中の生物 (1: ふえた方がいい。 2: 今のままでいい。)
- ⑤: 川の中の利用 (1: 遊べる方がいい。 2: 今のままでいい。)

阿賀野川の川づくりに関する地域のご意見

【川づくり全般について】

- ・全体に洪水が起きないようにしてほしい。自然を残して欲しい。
- ・安全第一に考え、そこに自然環境を考慮した美しい景観を保つ施策を行う。あまり経費のかからないように。遊歩道や公園を作っても、あまり利用度が少ないと思うので、先に述べたとおり安全第一、景観を優先に。
- ・阿賀野川の川幅を最大限生かした管理を行って欲しい。既往洪水を上回る規模の洪水があったとき、何が起きるかを想定した管理が必要と考えます。整備に加え、維持管理でも対応すべき事があると考えます。
- ・行政(管理者)は、住民と身近な空間としての川の役割を考えた施策を行ってほしい。川を掘削し、堤防の嵩上げでは味がない。地域住民とワークショップを的なものを開催して改修プランを作り上げてほしい。
- ・住民の河川整備等の認識を広めるため、広報活動などを充実させる。(イベント等)維持管理の充実(草刈など)

阿賀野川の川づくりに関する地域のご意見

【洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項】

- ・今後50年～100年先の治水対策をお願いします。
- ・大災害(大地震等)堤防の決壊が不安です。
- ・公共事業に対するバッシングがあるが、治水は聖域と考えて財源確保に努力願いたい。
- ・日本有数の大河である阿賀野川が洪水などにより一度破堤ともなると、流域では甚大な被害が生じることが考えられます。流域に住む住民としては、治水対策に万全な対策を講じてもらいたい。
- ・これからも治水対策(堤防の補強や床固めなど)を十分に行っていただきたい。
- ・日本は勿論世界の大都市には、必ず大河が流れ、特徴ある風情をかもし出している。阿賀野川も新潟が与えられた天からの贈り物である事を認識し、その良さを今後とも開発、維持することは肝要と思われる。まず治水あって、その後に利用を願いたい。
- ・地球温暖化が言われているゲリラ豪雨を考えられる十分な対策を望む。

阿賀野川の川づくりに関する地域のご意見

【河川の利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項】その1

- ・人が水に触れることが出来る川になって欲しい
- ・子供が川で遊べる環境(勾配の緩い河岸が必要)
- ・河川を利用した交通機能の確立などは可能か？
- ・地域住民の観光事業としての環境整備を将来に向けて。観光遊覧船(信濃川～通船川～阿賀野川～閘門～小阿賀野川～信濃川) 新潟空港からの連携もとれるような。
- ・レクリエーションは公園だけでなく、モータースポーツ等の施設整備を要望します。(利用者に応分の負担をもとめることで、利用しない方の理解を)
- ・広い河川敷をもっと市民が憩える場所にしてほしい。公園、スポーツ広場の増設。信濃川のやすらぎ堤のような環境。
- ・魚釣りが誰でも自由に出来ると今以上に川への親しみも多くなり良いと思う。漁業権等も考え検討されたし。

阿賀野川の川づくりに関する地域のご意見

【河川の利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項】その2

- ・勝手な考えですが、公園のような場所が多いと良いと思います。河川とふれあうことで、川の危険性もわかるので子供から大人まで意識が高くなって良いと思います。川で遊ばないと川の良さがわからないと思います。治水が一番ではありますが。
- ・通勤で堤防を通ったりするが、道路幅が狭く夜間はあぶないと思う。信濃川のような「やすらぎ堤」を公園のある場所に設けてほしい。
- ・イベント等について、川を訪れる人間はお客さんであり、主人公はそこに生息する動植物であるという考え方が大切だと思います。イベントの事業主体は自治体でしたら、話の持ち込み先は別でしょうが。
- ・森林保全(水質保全)・工場排水等の管理・下水道普及の向上など、関連機関等で水質保全協議会を立ち上げ具体的な対策を講じたらどうか。
- ・河川を水道水に利用していることから水質が気になる。
- ・水質保全(改善)のため、流域自治体が連携して取り組むシステムが必要と思う。河川(流域)毎に水質目標を設定し、達成に向けてあらゆる下水道事業を導入して行動することが必要と思う。

阿賀野川の川づくりに関する地域のご意見

【河川環境の整備と保全に関する事項】

- ・緑豊かな河川であり続けることを願って。
 - ・気持ちを豊かにできる空間。
 - ・多自然形、生物多様にもとづく河川環境を
 - ・見ているキレイな川が良い。
 - ・あし、木などを切って、川辺が見えるように。
 - ・最低限、邪魔ではない木は切らないでほしい。
- ・住民にとっては、阿賀野川はやはり身近な存在です。河川環境浄化を含め親しみやすい川となるような対策をお願いしたい。
- ・あまり人工的に作らないで、川にも遊びを持たせて欲しい。
- ・川の景色が大好きなので、毎日のように見て和んでいます。いろんな動物もいて、できれば公園にしないで、そのままの自然の状態にしていってほしいです。樹木が密生しているところもジャングルっぽくて大好きなんです。

阿賀野川の川づくりに関する地域のご意見

【その他】

- ・ハード面だけじゃなく、森林保水に積極的に関わるようにすべきと思います。
- ・大浜陸閘を手動以外でも、操作できるようにしてほしい。
- ・堤防の道路をもっと広くして欲しい。
- ・阿賀の風景に心引かされています。横越神社の周辺の川辺に桜苗樹を育ててもらえたら、さぞいい景観が生まれると思われれます。



阿賀野川水系河川整備計画 (阿賀野川関係)

課題への対応案

平成21年6月1日
国土交通省 北陸地方整備局

1. 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項

- (1) 洪水を安全に流下させるための“河道断面”の確保
- (2) 堤防・護岸等の質的安全性の確保
- (3) 減災への取り組み

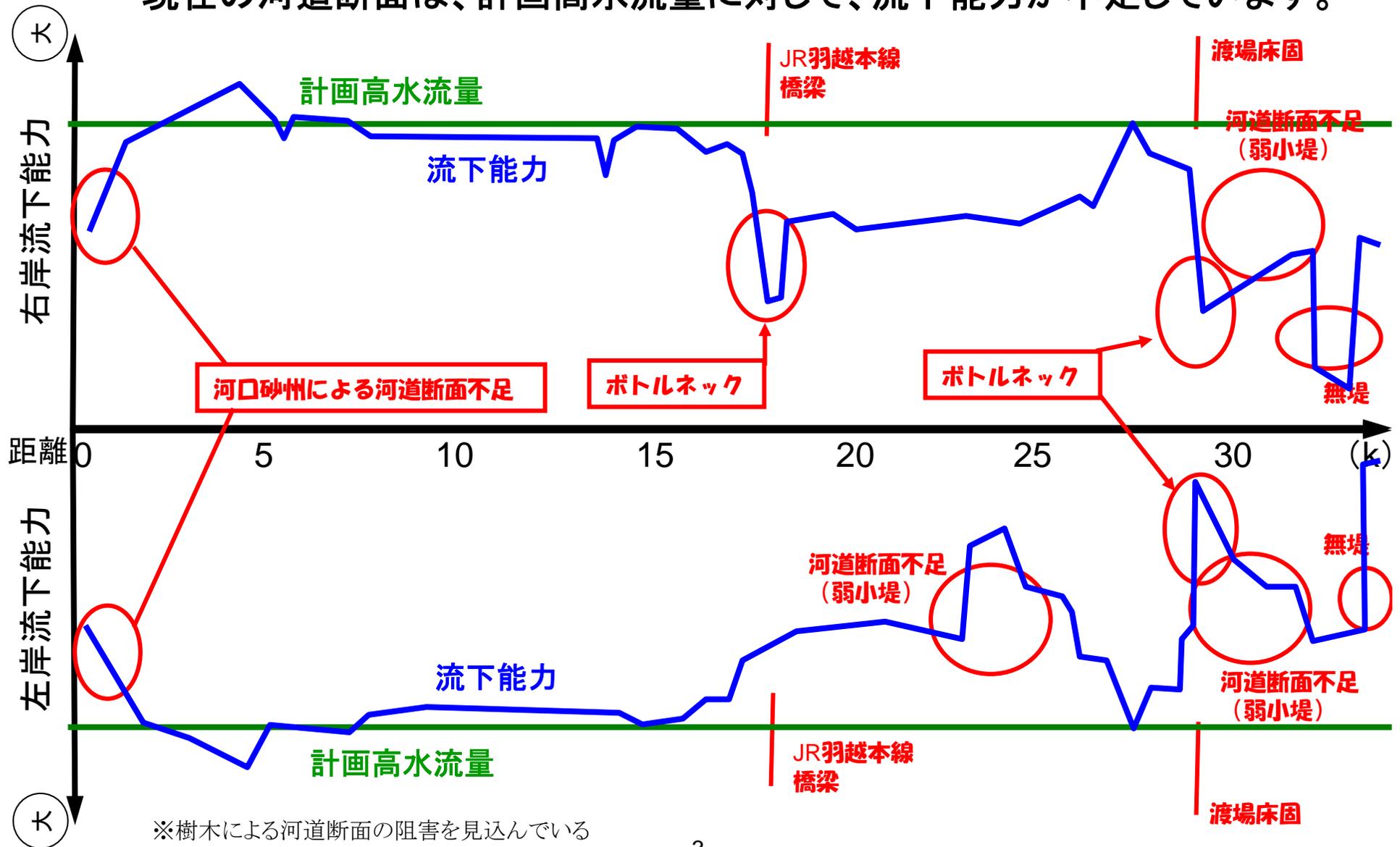
(1) 洪水を安全に流下させるための “河道断面”の確保

阿賀野川の洪水氾濫から沿川地域を防護するため、洪水を計画高水位(H. W. L)以下で流下させ、氾濫被害の防止を図ることが必要です。

- ①堤防の整備(量的整備)
- ②河道掘削
- ③樹木群管理(河川の断面の確保)

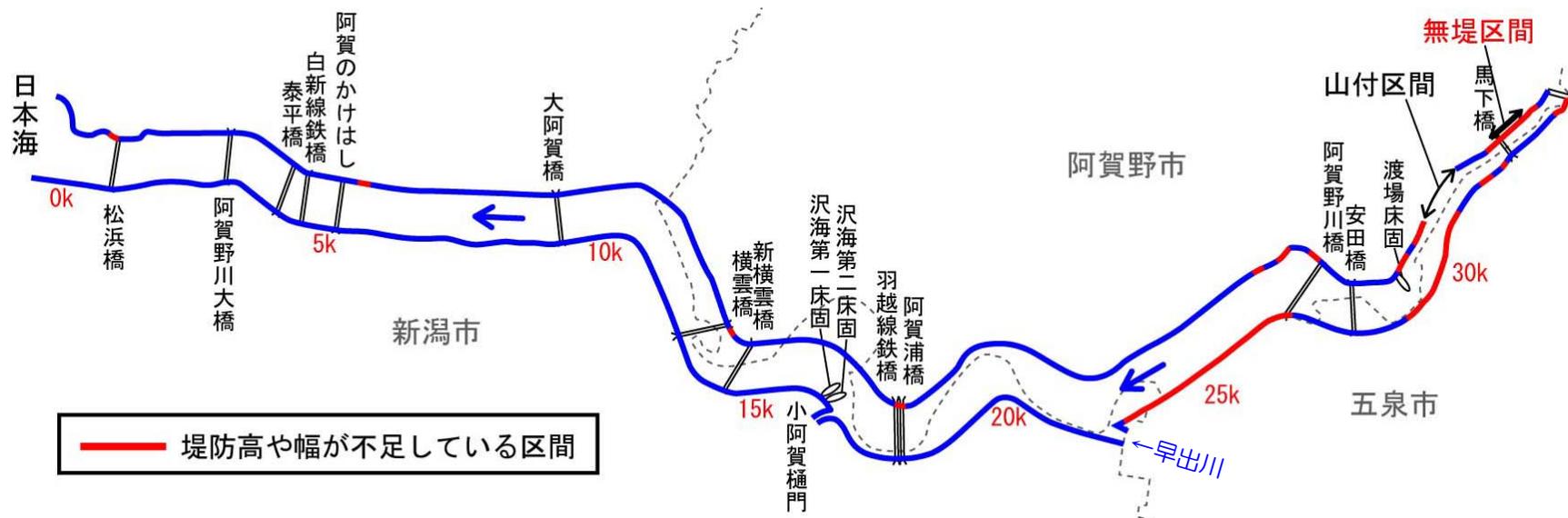
◆流下能力の状況◆

・現在の河道断面は、計画高水流量に対して、流下能力が不足しています。



①阿賀野川堤防の現状と課題

- ・阿賀野川の堤防整備は大正年間から築造されています。
- ・ほぼ全川が有堤区間ですが、未完成堤防(弱小堤、無堤)が存在しています。
- ・特に早出川合流点より上流の一連区間に集中しています。



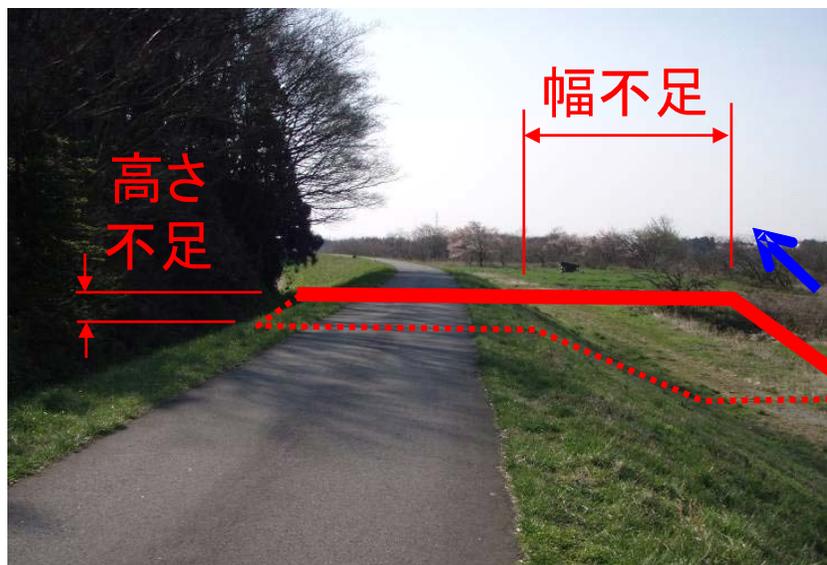
①弱小堤防区間への対応

- ・堤防高や堤防幅が不足する弱小堤防を計画堤防に完成させる必要があります。

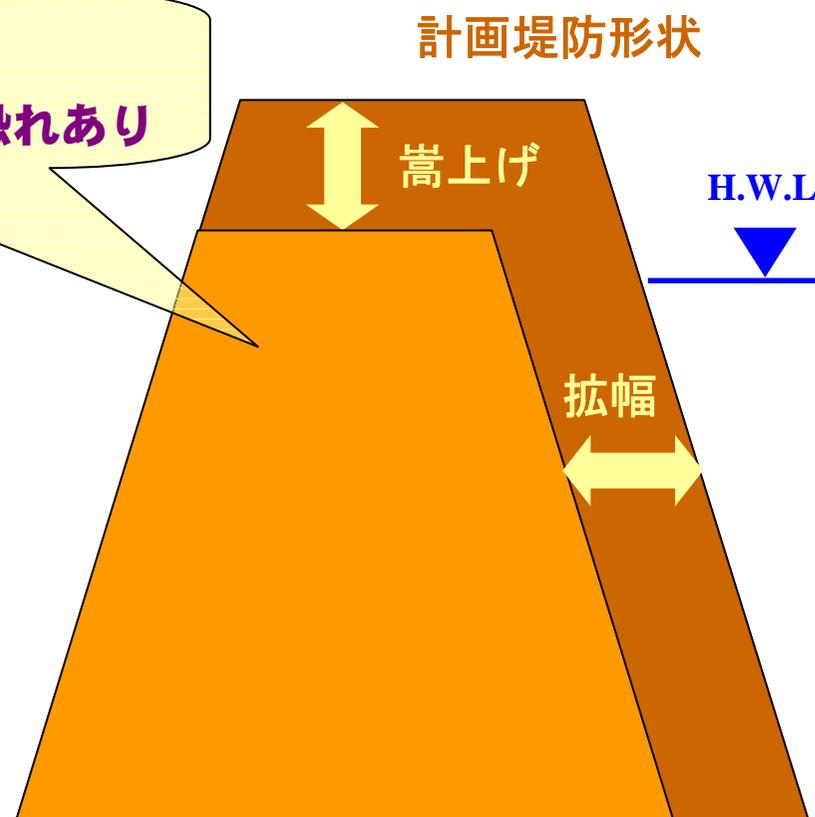
弱小堤防区間（渡場地区、笹堀・馬下地区、高山地区）

高さ・幅不足

→ 越水による堤防決壊の恐れあり



弱小堤防の状況（五泉市笹堀地区）

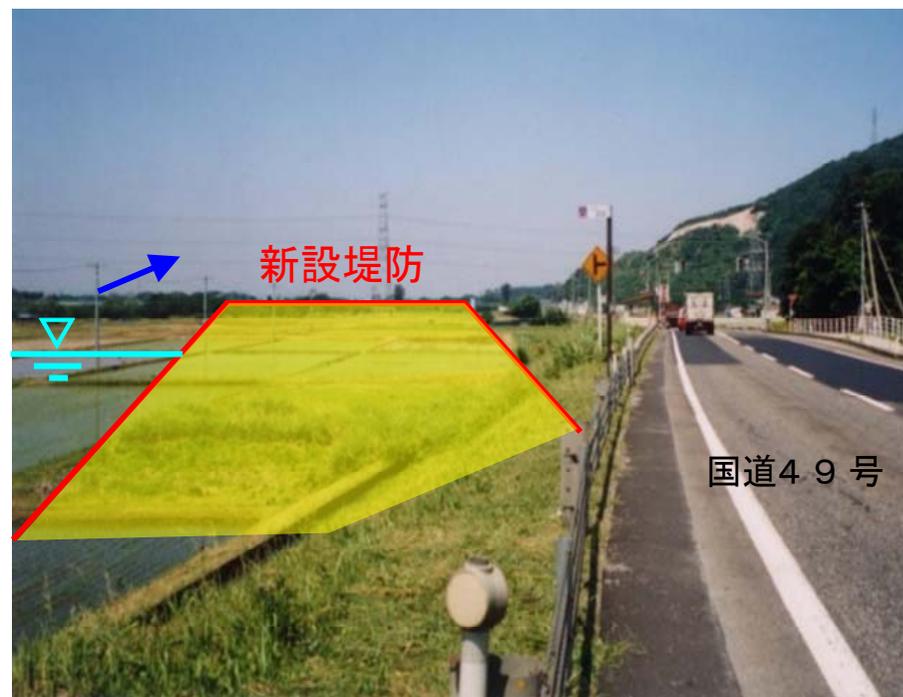


①無堤区間への対応

- ・小松地区の無堤区間については築堤を行う必要があります。



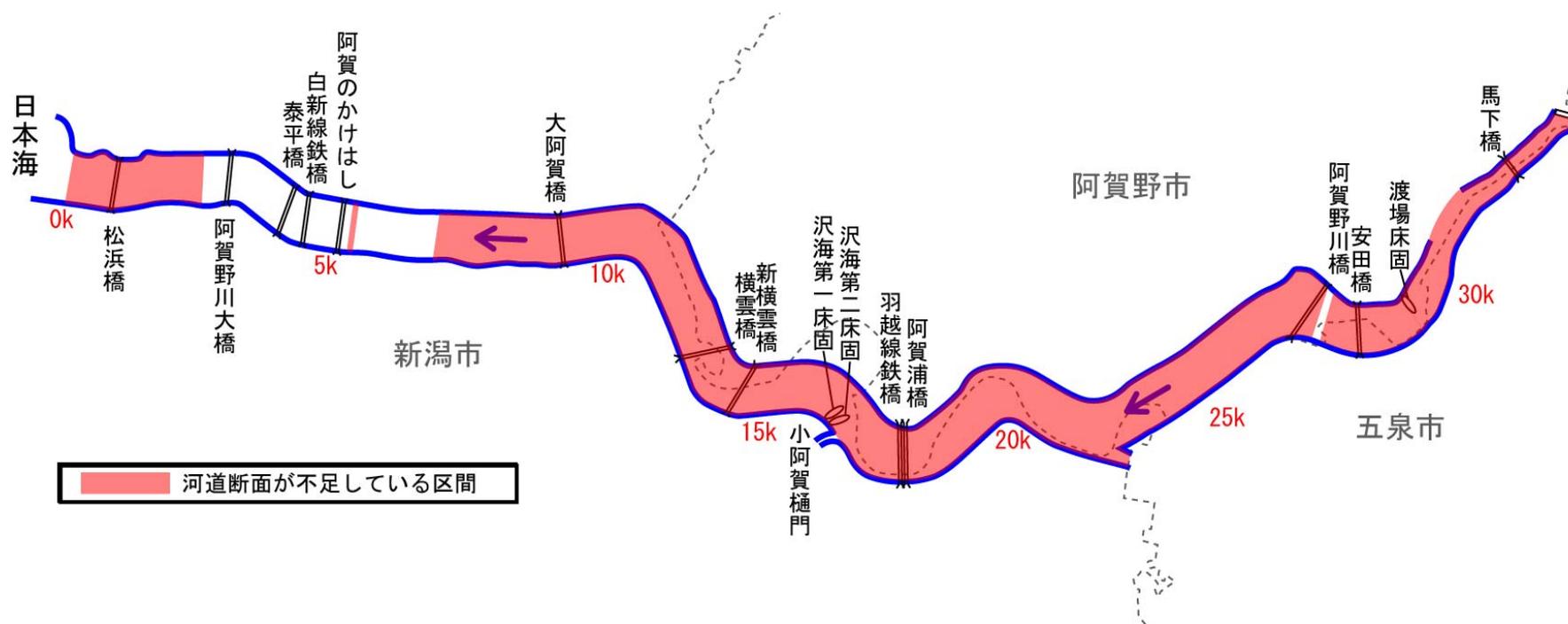
無堤区間の全景（阿賀野市小松地区）



無堤区間の状況（阿賀野市小松地区）

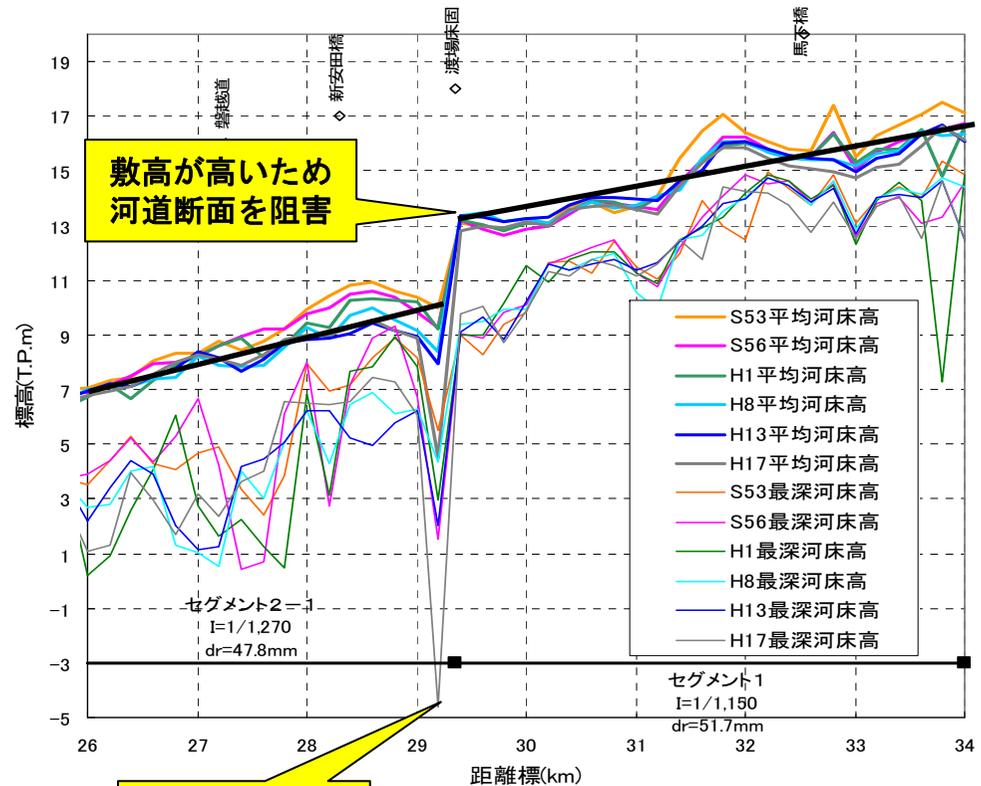
②河道断面不足区間の現状と課題

- ・河口部、沢海床固上流区間、及び渡場床固上流区間においては、洪水を安全に流すための河道断面が不足しています。
- ・渡場床固は現状において敷高が高いことから、床固上流の水位上昇の大きな要因となっています。
- ・樹木の繁茂も河道断面不足の要因となっています。



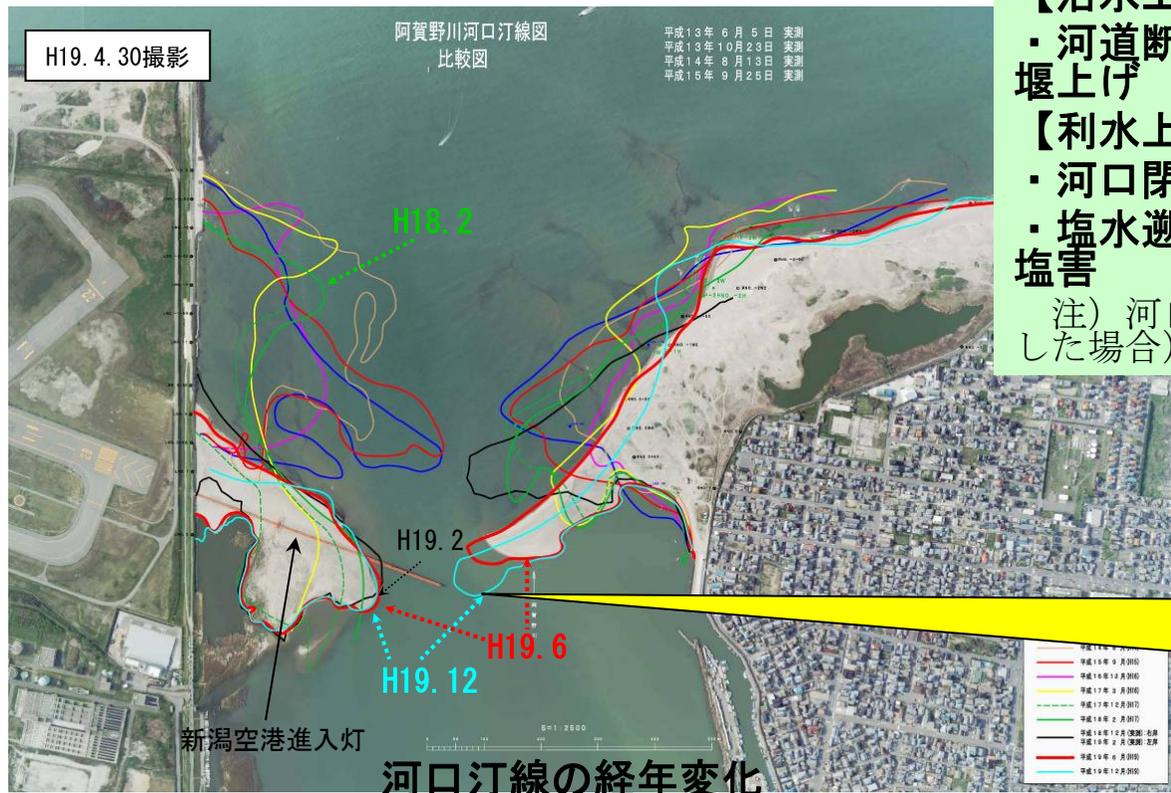
②河道断面不足区間への対応

- ・河道掘削を行うことで、上流側の水位を低下させることが可能です。
- ・渡場床固は、河道の安定と河床洗掘防止ため、昭和29年～32年にかけて設置されましたが、老朽化と下流の深掘れにより構造的に不安定であることから、河道掘削と併せて改築を行う必要があります。



②河口砂州への対応

- ・河口部の砂州は、冬期波浪等により発達し、融雪期及び梅雨期等の洪水によりフラッシュされ、減退と伸長を繰り返していますが、そのメカニズムは解明されていません。
- ・河口砂州の動態について把握するため、モニタリング等を行い、適切な管理を行う必要があります。



【治水上の問題点】

- ・河道断面阻害による洪水時の水位の堰上げ

【利水上の問題点】

- ・河口閉塞による舟運障害
- ・塩水遡上による取水障害や構造物の塩害

注) 河口砂州の塩水遡上抑制機能が減衰した場合)

近年、河口砂州が河道内に移動している。

③樹木群管理（河川の断面の確保）の現状と課題

- ・河道の固定化が進み、樹木群の繁茂が進行しています。
- ・洪水流下時の阻害や偏流の発生、河川管理施設等への障害、河川巡視時の視認障害、不法投棄の温床になるなど、多くの弊害があります。
- ・一方では、生物の良好な生息・生育環境を提供しています。



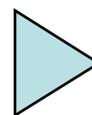
昭和22年（早出川合流点付近）



平成17年（早出川合流点付近）

③樹木群管理（河川の断面の確保）への対応

・洪水を安全に流下させるうえで支障となっている樹木群については、動植物の生息・生育環境の保全の観点等、河川環境への影響に配慮しつつ、伐採による樹木群管理を行っていく必要があります。



樹木伐採の事例（阿賀野市下里地区）

(2) 堤防・護岸等の質的安全性の確保

堤防の質的整備を行い、堤防の安全性を確保し、氾濫被害ポテンシャルの軽減を図る必要があります。
また、水衝部の河岸を強化し、堤防の安全性を高める必要があります。

- ④堤防の整備(浸透)
- ⑤堤防の整備(大規模地震)
- ⑥水衝部の河岸強化

④堤防の浸透に対する現状と課題

- ・阿賀野川の堤防は全川的に旧河道上に築造されており、既往出水において漏水等が生じています。

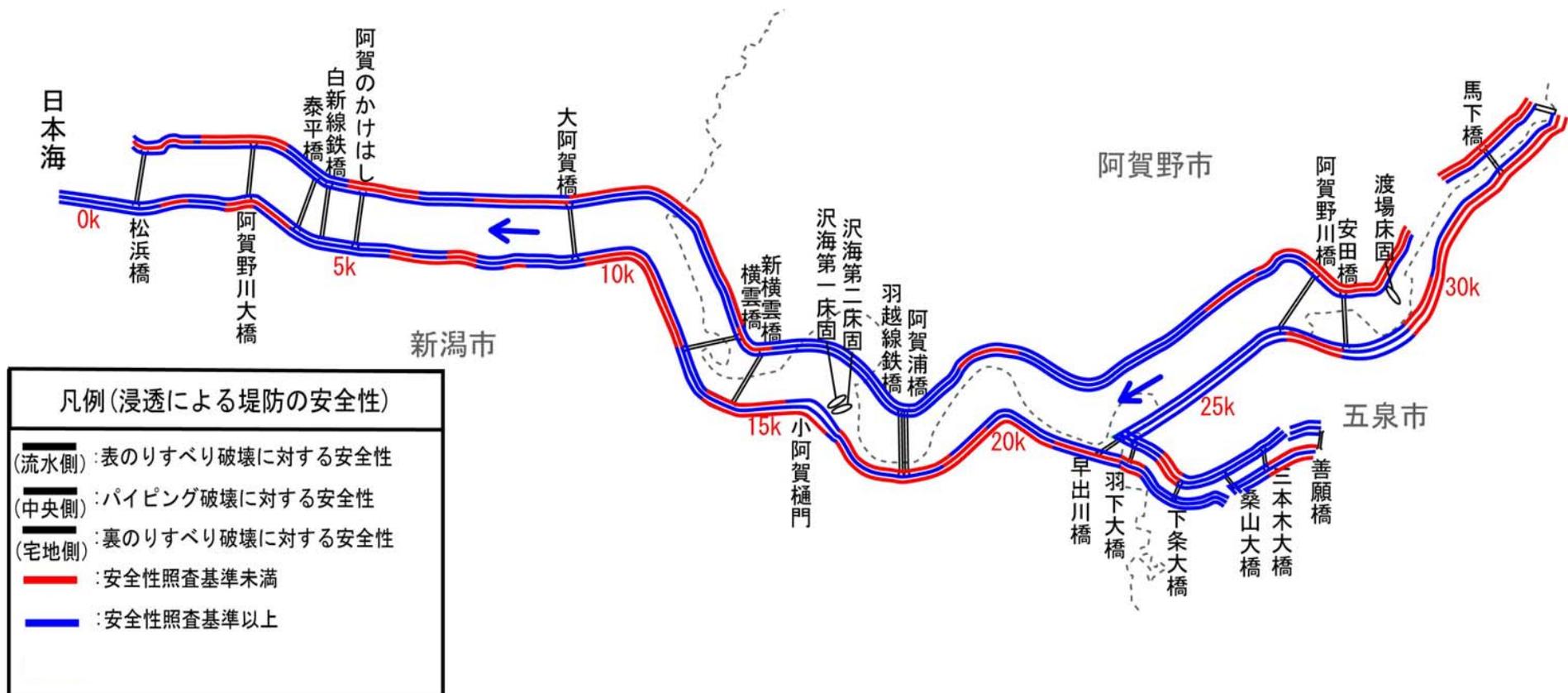


弱体化している堤防で起こる現象



④堤防の浸透に対する現状と課題

・浸透に対する堤防の安全性について、詳細点検を実施した結果、安全性の不足する区間が数多く判明しています。



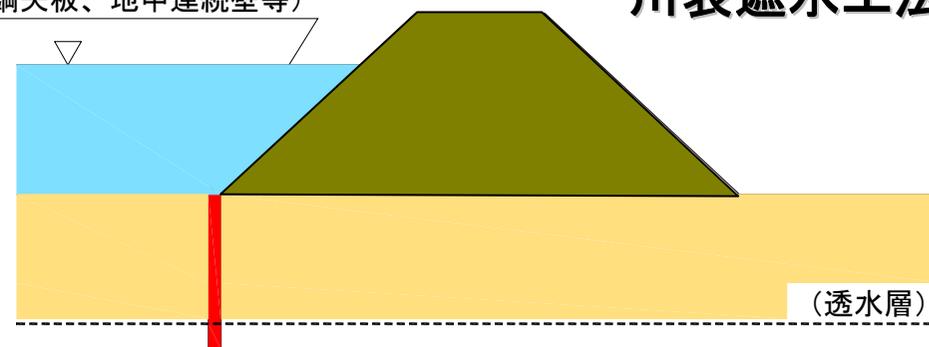
④堤防の浸透への対応

- ・浸透に対して安全性が不足する箇所については、堤防の土質条件や外力条件等に応じた適切な対策を行う必要があります。

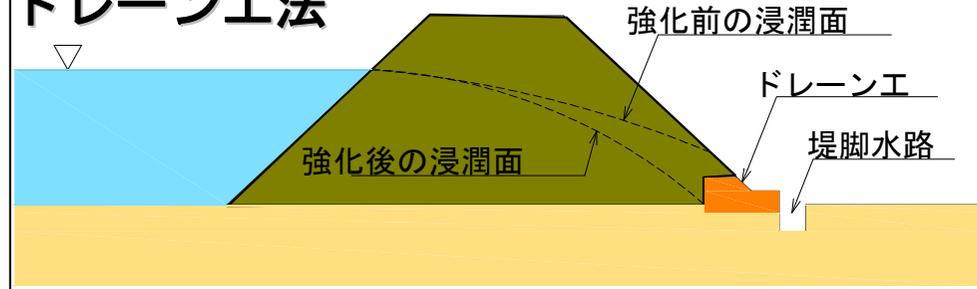
代表的な浸透対策
工法の例

遮水壁（鋼矢板、地中連続壁等）

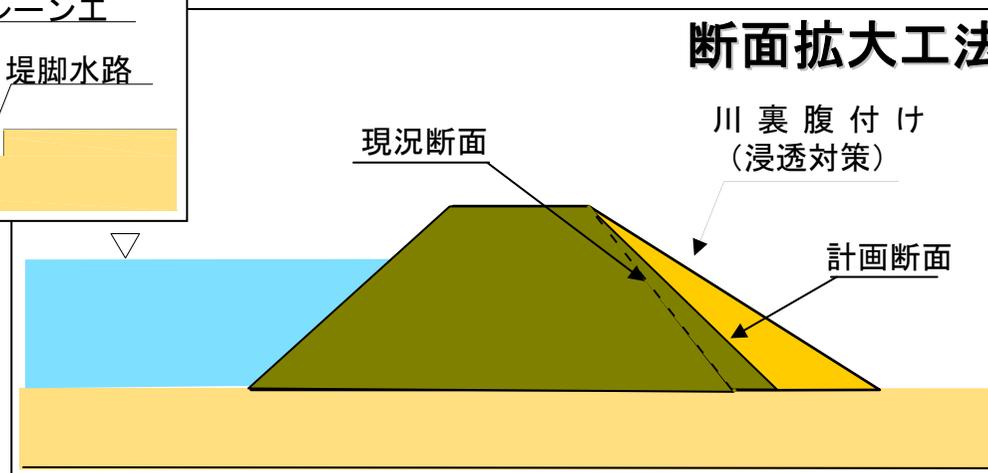
川表遮水工法



ドレーン工法



断面拡大工法

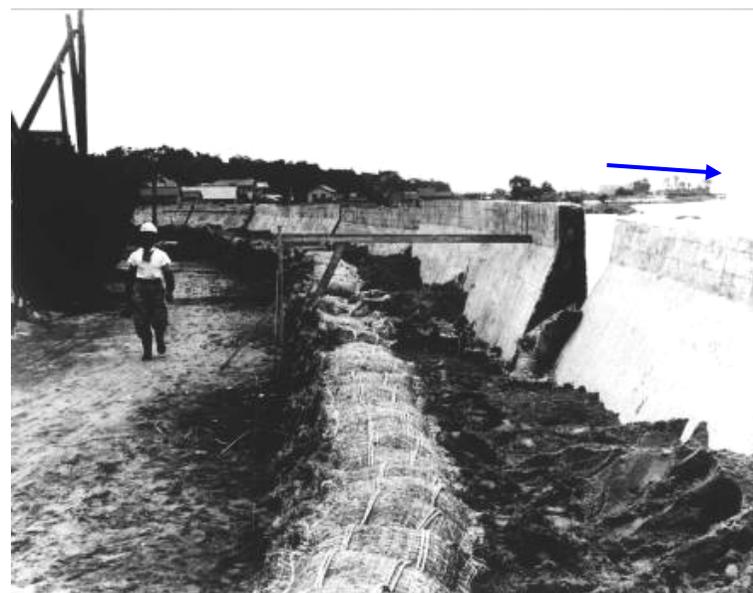


⑤大規模地震に対する現状と課題

- ・河口部の堤防下には、地震により液状化する地層が存在しています。
- ・大規模地震により地盤が液状化現象を起こした場合、地盤の沈下とともに堤防が破壊されることが予測されています。
- ・破壊された堤防を津波が乗り越えて、海拔0m地帯を中心に大きな浸水被害が発生する恐れがあります。



左岸1.0k付近（新潟市東区下山）



右岸0.0k付近（新潟市北区松浜）

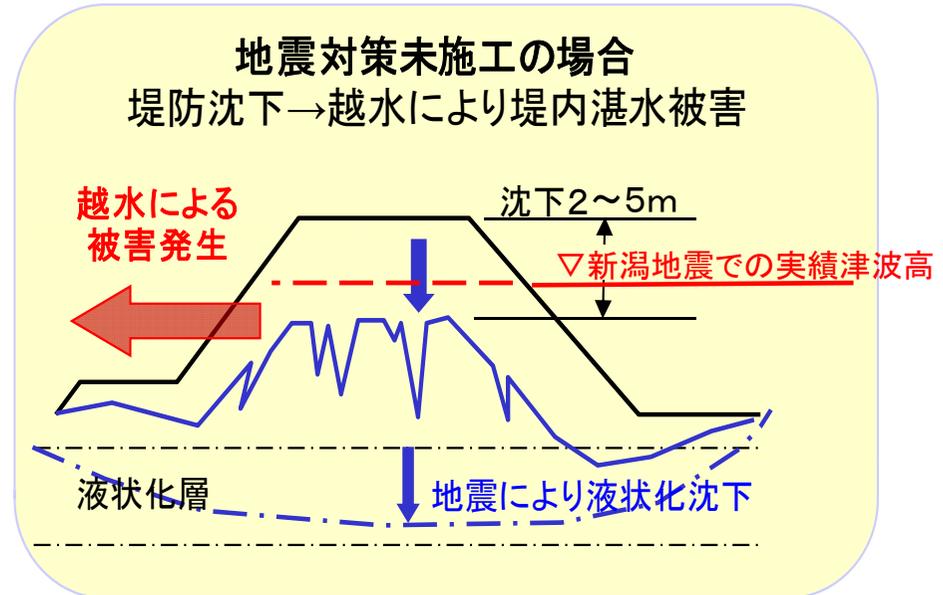
【新潟地震（S39.6.16）による被災状況】

⑤大規模地震への対応

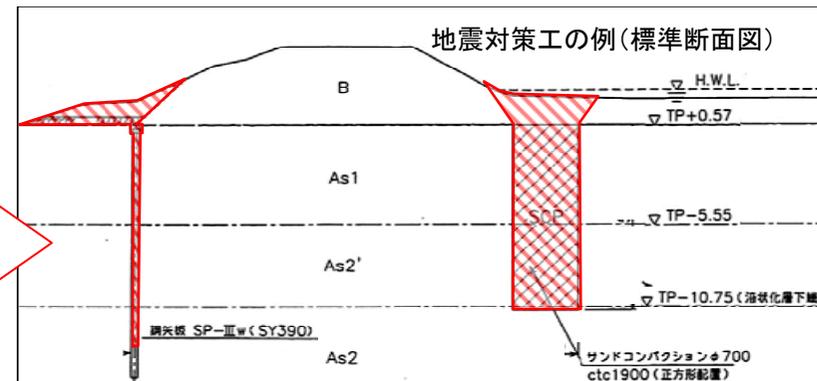
- ・将来にわたり想定される最大級の地震(レベル2地震動)が発生した場合でも、津波による浸水被害を生じさせないため、堤防の破壊を最小限に止める必要があります。



..... 河口部堤防



■地震対策工の例
サンドコンパクションパイルによる締固めや
鋼矢板により液状化層の抵抗力の増大させる

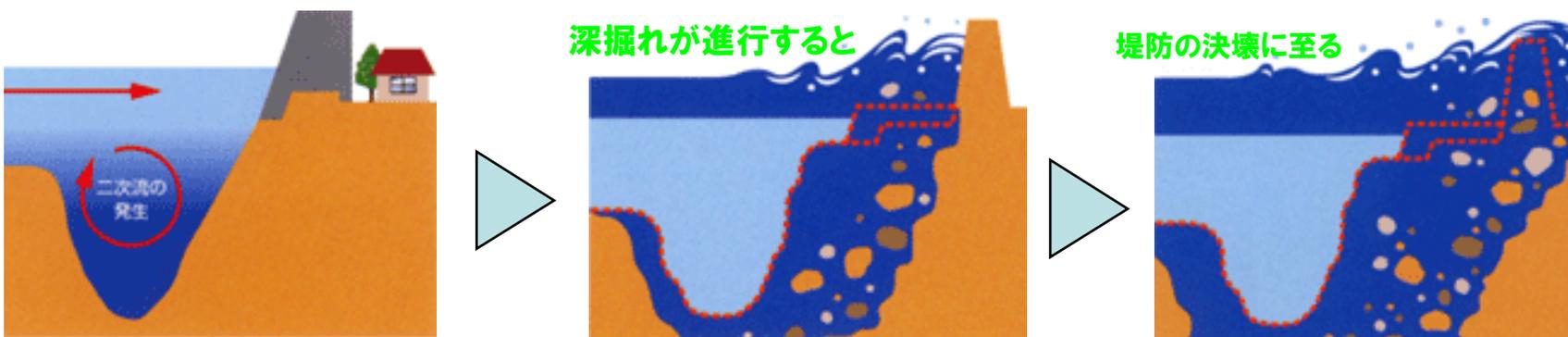


⑥水衝部の現状と課題

- ・阿賀野川は、全国でも例をみない大きな湾曲部があり、三大水衝部(灰塚、横越、中新田)を形成しています。
- ・水衝部は深掘れが生じやすく、洪水時には護岸の基礎部が大きく侵食され、堤防の決壊に至る恐れがあります。

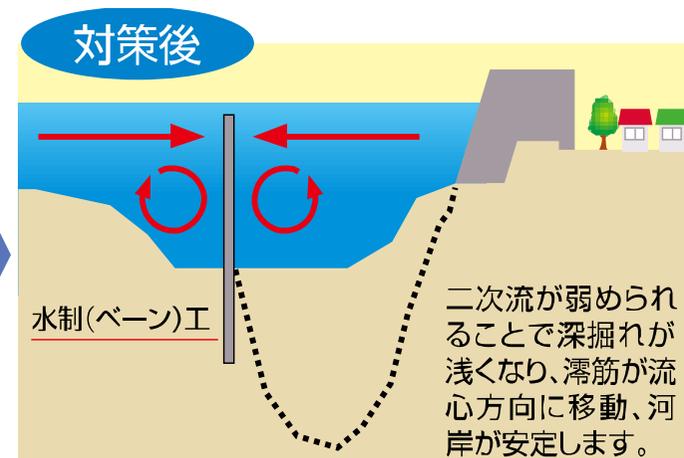
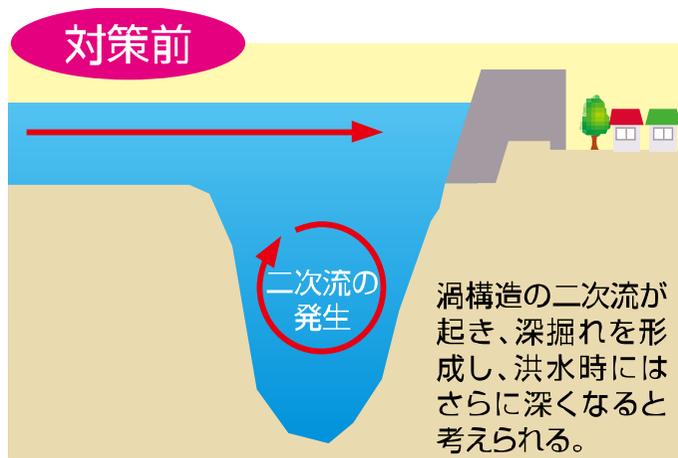


阿賀野川の三大水衝部



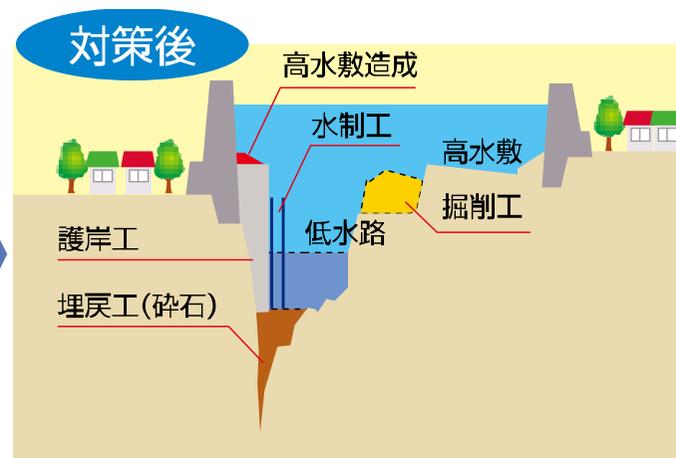
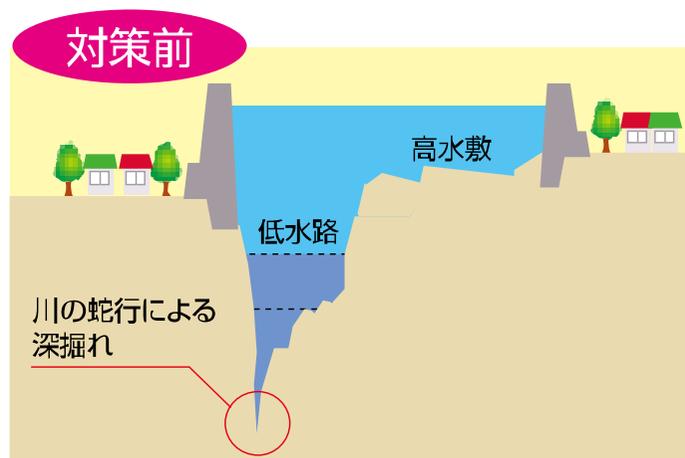
⑥水衝部の現状と課題（新潟市北区灰塚地区）

- ・灰塚地区は平成21年度に水衝部対策が概成する予定です。
- ・深掘れの状態や対策工の効果を確認するため、モニタリングの継続が必要です。



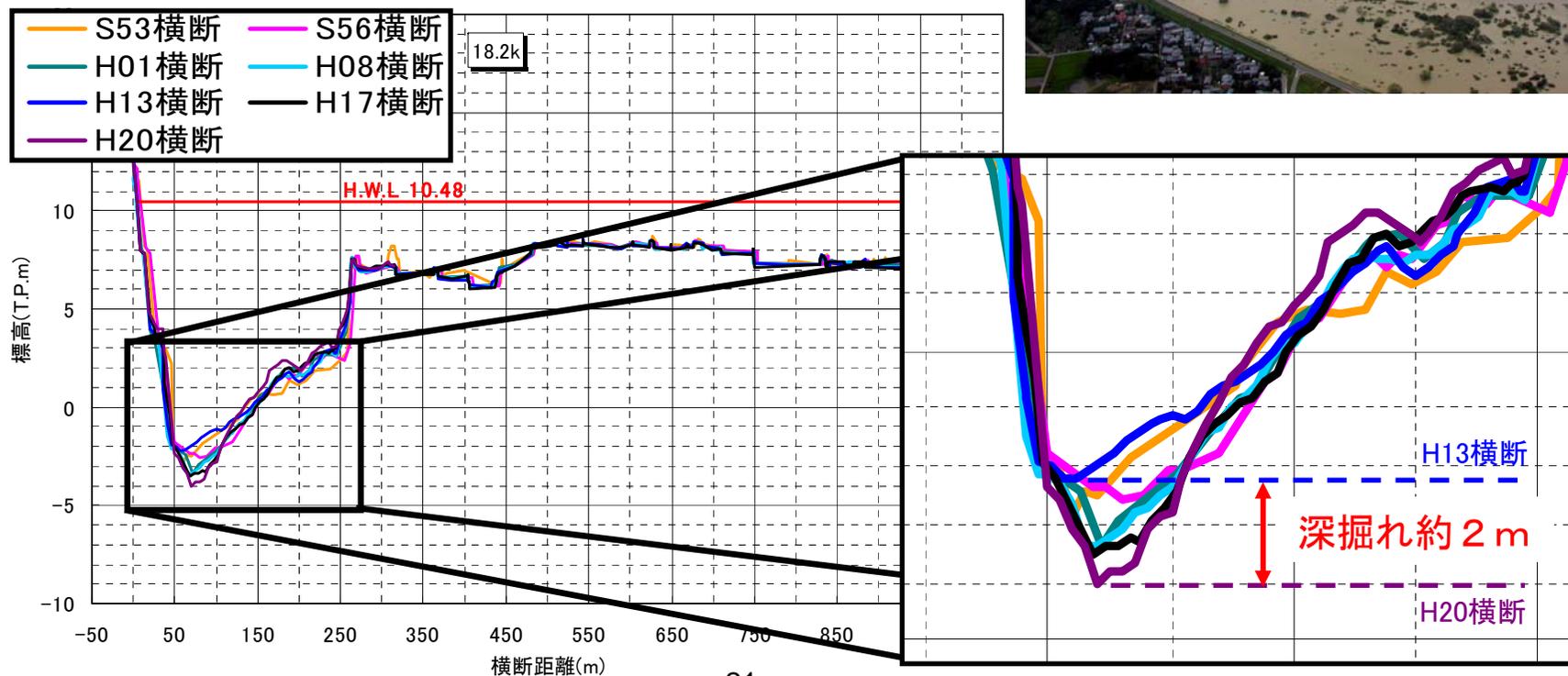
⑥水衝部の現状と課題（新潟市江南区横越地区）

- ・横越地区は平成17年度に水衝部対策が概成しています。
- ・深掘れの状態や対策工の効果を確認するため、モニタリングの継続が必要です。



⑥水衝部の河岸強化への対応（新潟市秋葉区中新田地区）

・中新田地区は、近年は深掘れの進行が見受けられるため、モニタリングの継続と適切な対応が必要です。



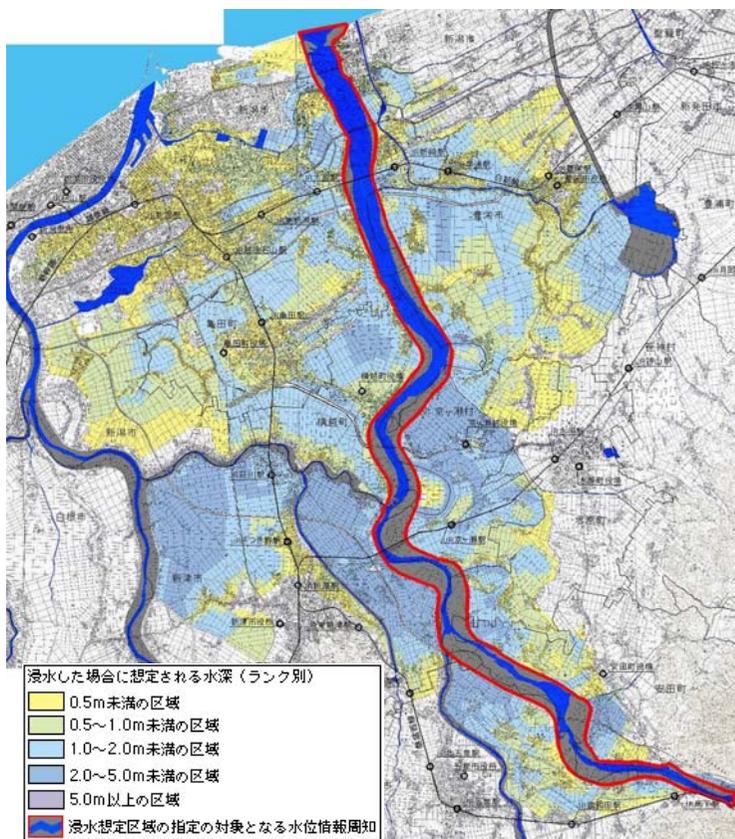
(3) 減災への取り組み

堤防が決壊した場合に、洪水流が急激に拡大する氾濫原であることを踏まえて、ハード面及びソフト面での水防管理体制の強化・充実を推進し、被害を最小化する「減災」の取り組みが必要です。

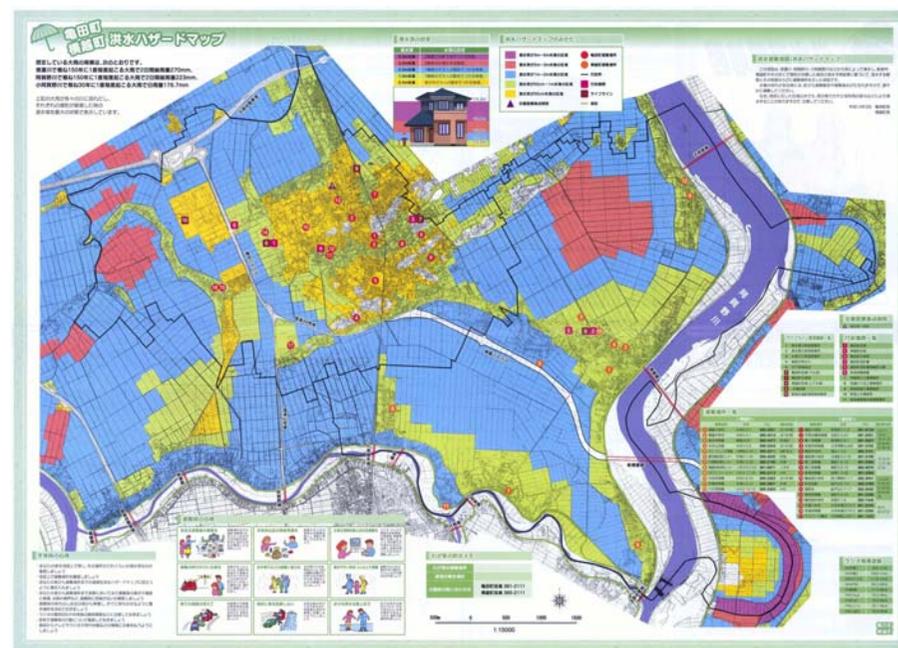
- ⑦防災情報提供
- ⑧水防団活動支援
- ⑨出水時対応

⑦防災情報提供の現状と対応

- ・阿賀野川の氾濫原は拡散型であるため、ひとたび氾濫すると広範囲かつ甚大な被害が発生します。
- ・阿賀野川及び早出川を対象とした浸水想定区域図を作成・公表しています。
- ・避難情報を示したハザードマップは、沿川自治体(新潟市、五泉市、阿賀野市)で公表及び全戸配布済みです。



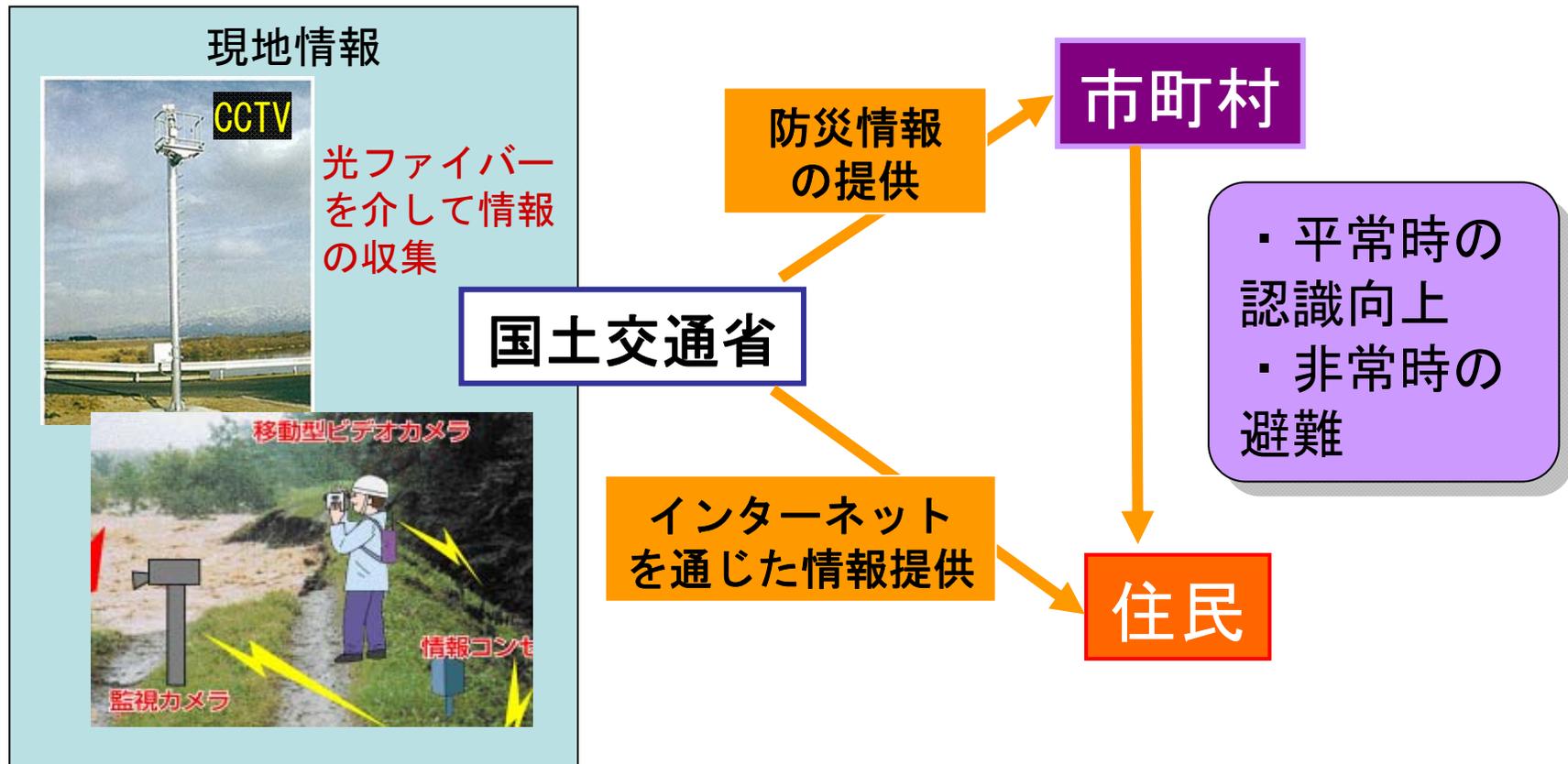
阿賀野川浸水想定区域図



亀田・横越地区ハザードマップ(新潟市)

⑦防災情報提供の現状と対応

- ・河川情報の収集と提供を行っています。
- ・光ファイバー等の情報設備の整備を進めるなどの対応が必要です。



⑧水防団活動支援の現状と対応（JR羽越本線橋梁部）

- ・大正元年に完成したJR羽越本線の阿賀野川橋梁は、桁下の余裕高が足りず、径間長も不足しているため、治水上のネックとなっています。
- ・現在は、CCTVカメラにより監視体制を強化するとともに、近傍の堤防上に土のう等を常備して、水防活動により対応していますが、更なる対応が必要です。



右岸堤防の状況

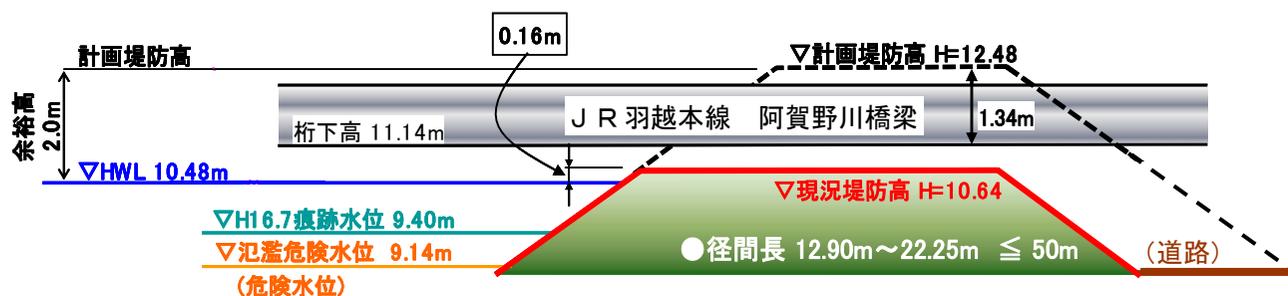


H16. 7. 13洪水時の水防活動状況



緊急資材の常備

JR羽越本線橋梁部横断模式図



橋梁部の右岸堤防模式図

⑧水防団活動支援の現状と対応（巡視及び訓練）

- ・阿賀野川沿川の水防管理団体（新潟市、五泉市、阿賀野市）では、水防訓練を毎年実施しています。
- ・水防団と河川管理者が合同で重要水防箇所の巡視点検を毎年実施しています。

阿賀野川 水防訓練

1. 実施内容（実施工法）

基本訓練、水防工法訓練

2. 参加機関

新潟市、阿賀野市、五泉市、新潟地域振興局地域整備部、新発田地域振興局地域整備部、新潟地域振興局新津地域整備部、阿賀野川河川事務所



合同巡視の実施状況



⑧水防団活動支援の現状と対応（河川防災ステーション）

- ・きょうがせ河川防災ステーションは、阿賀野川における自治体（水防管理団体）の水防活動の防災拠点として整備されました。
- ・水防活動を行う上で必要な土砂などの緊急用資材を備蓄している他、資材の搬入やヘリコプターの離発着などに必要な作業面積を確保しています。



きょうがせ河川防災ステーション



平常時



災害時

平常時と災害時の防災ステーションの役割

⑨出水時対応の現状

- ・出水時の対応に備え、排水ポンプ車及び照明車等を配備しています。



照明車（夜間運転訓練）



排水ポンプ車（夜間運転訓練）

2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

- (1) 流水の正常な機能の維持
- (2) 良好な水質の保全

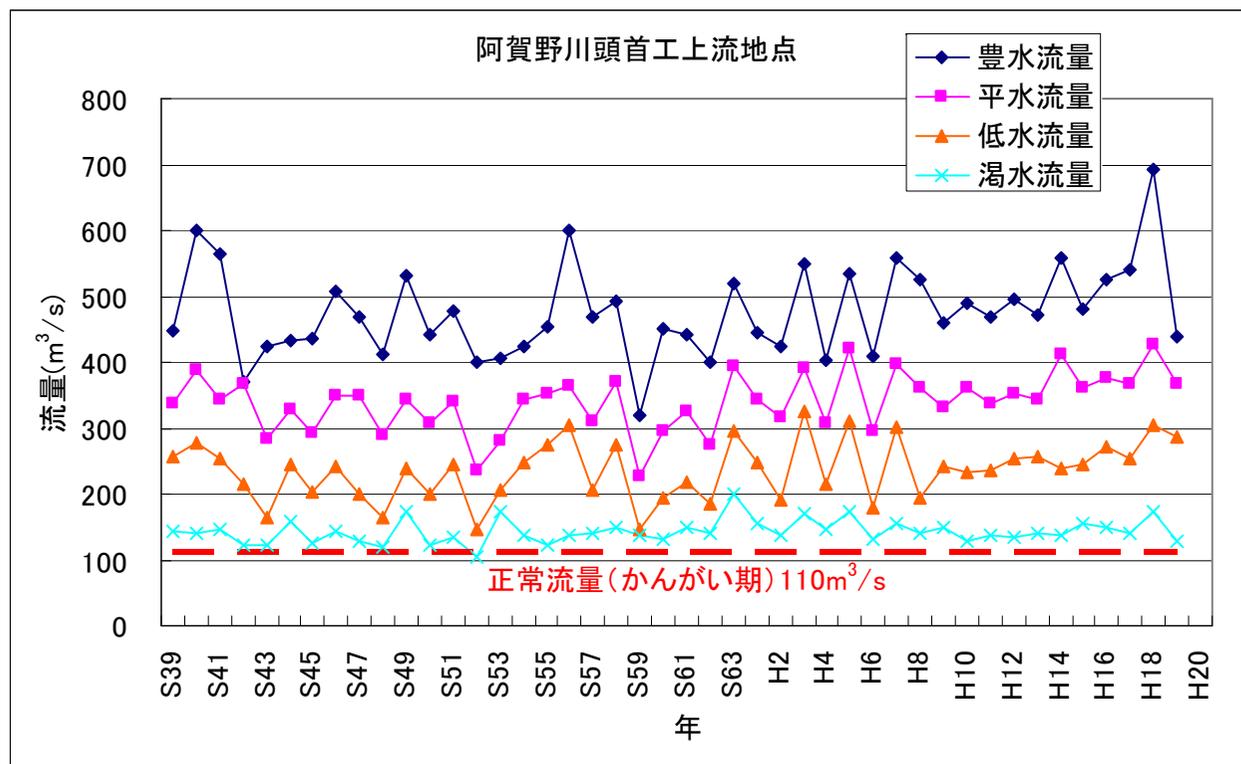
(1) 流水の正常な機能の維持

広域的かつ合理的な水利用の促進を図る等、関係機関と連携して必要な流量の確保に努める必要があるとともに、渇水等の被害を最小限に抑えるため、情報提供、情報伝達体制を整備し、水利使用者相互間の水融通の円滑化等を関係機関及び水利使用者等と連携して推進する必要があります。

⑩流水の正常な機能の維持

⑩流況の現状

- ・阿賀野川頭首工上流地点の流況は、過去42年(S39～H17)の平均平水流量で約337m³/s、平均渇水流量で約141m³/sです。
- ・正常流量は概ね110m³/s(かんがい期)、概ね77m³/s(非かんがい期)です。
- ・渇水流量でも正常流量110m³/sを上回っており、過去において深刻な渇水被害は生じていません。



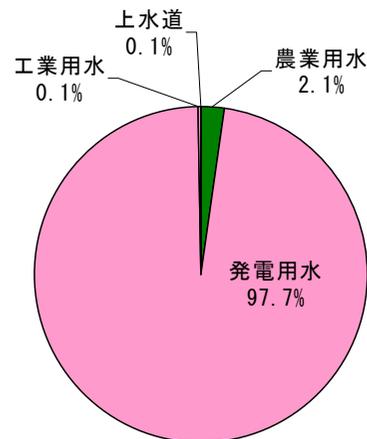
阿賀野川馬下頭首工上流地点における流況の経年変化

⑩水利用の現状

- ・阿賀野川の流水は、古来から農業用水や生活用水、及びその水量と地形条件を活用した水力発電に利用されてきました。
- ・農業用水の利用は、大臣区間上流端の阿賀野川頭首工で、かんがい期に最大42.15m³/sが取水されるなど、約5万haにおよぶ耕地のかんがいに利用されています。



阿賀野川頭首工



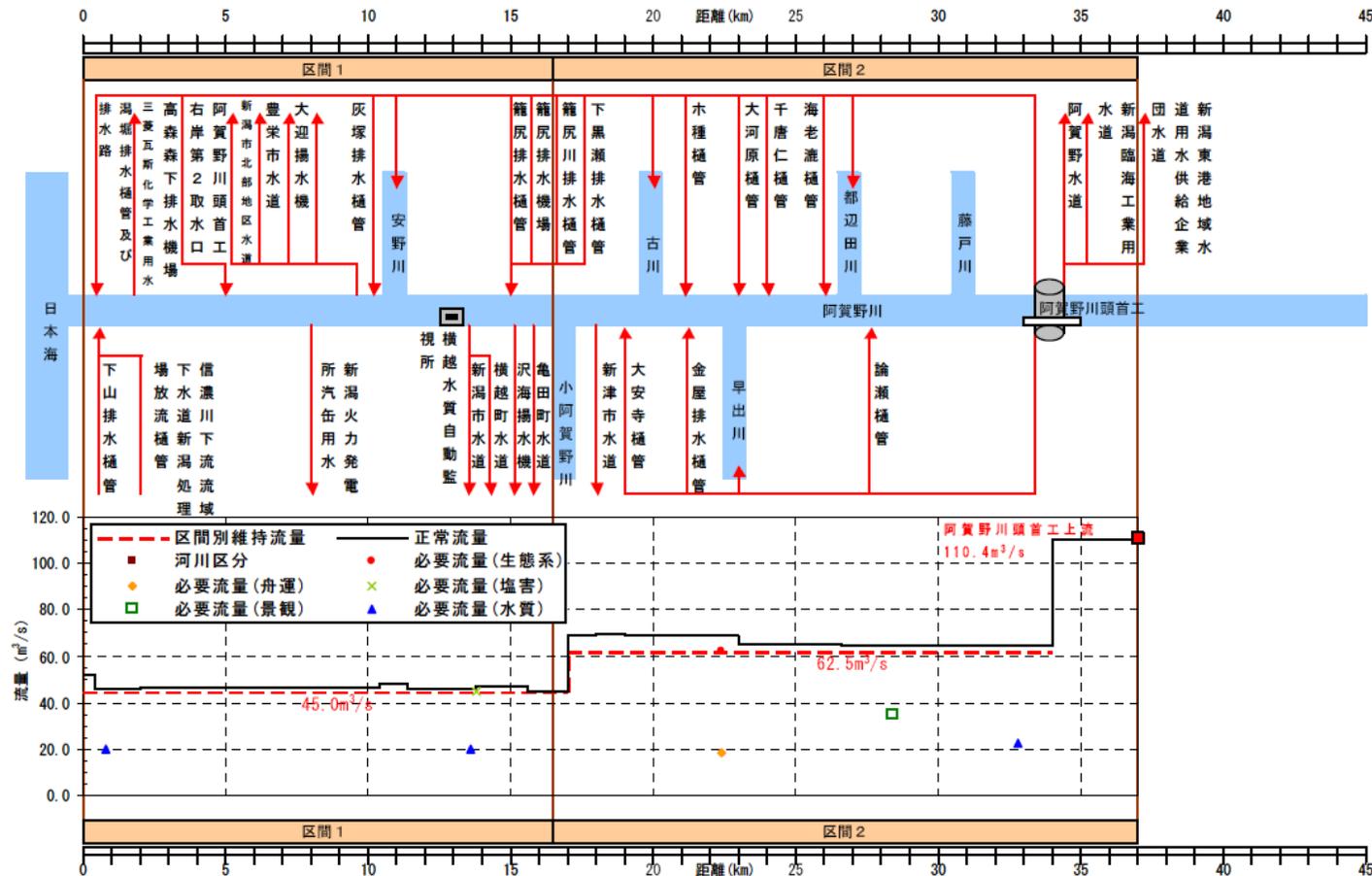
阿賀野川水系の水利用の割合



阿賀野川水利使用模式図

⑩流水の正常な機能の維持への対応

・阿賀野川頭首工上流地点における「流水の正常な機能を維持するために必要な流量」は、非かんがい期は概ね77m³/s、かんがい期は概ね110m³/sであり、今後も適正な水利用の調整を行う必要があります。



阿賀野川正常流量縦断図
(5/8~9/5)

出典：第71回河川整備基本方針検討小委員会（H19.7.11）資料より再掲

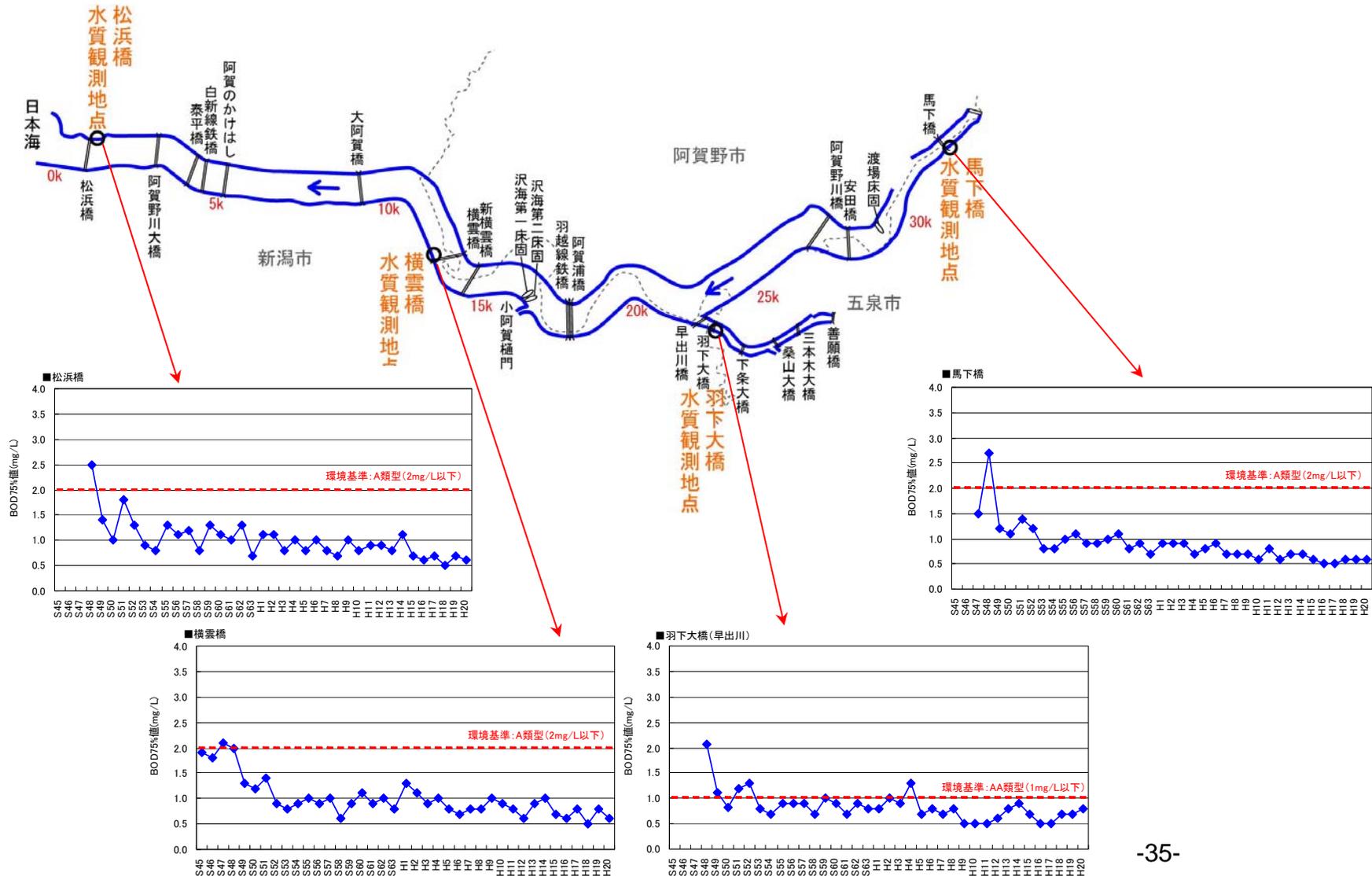
(2) 良好な水質の保全

継続的な水質調査及び関係機関との連携により、良好な水質の維持・保全が必要です。

① 良好な水質の保全

⑪水質の現状

- ・BOD75%値は全ての水質観測地点で環境基準値を満足しています。
- ・BOD以外の水質項目についても概ね環境基準値を満足しています。



⑪水質の保全に向けた対応

- ・環境基準を満足する良好な水質を保全するため、継続的な水質モニタリングを行う必要があります。
- ・県、沿川自治体及び地域住民と連携し、水質悪化につながるゴミの不法投棄対策等の水質保全に向けた取り組みが必要です。
- ・水質事故等の緊急時に迅速に対応するため、水質自動監視装置や河川巡視員等による監視の徹底と、万一の水質事故発生時には、関係機関と連携した被害の拡大防止が必要です。



排水施設等に対する合同パトロール
(水質汚濁協議会)



水質汚濁対策の指導及び広報
(水生生物調査)

3. 河川環境の整備と保全に関する事項

- (1) 良好な景観と多様な自然環境の保全・創出
- (2) 地域との連携・協働による河川環境の整備・保全の推進

(1) 良好な景観と多様な自然環境の 保全・創出

阿賀野川と流域の人々との歴史的・文化的なつながりを踏まえ、滔々と流れる大河が織りなす良好な河川景観や、多様な動植物が生息・生育・繁殖する自然環境を保全及び創出し、次世代に引き継ぐ必要があります。

⑫河川環境に配慮した河川管理

⑫河川環境に配慮した河川管理

- ・阿賀野川が有している河口砂州、水際植生、瀬・淵、雄大な河川景観など、阿賀野川らしい河川環境を保全していく必要があります。
- ・河川工事等により河川環境に影響を与える場合には、代償措置(多自然かわづくり等)によりできるだけ影響の回避・低減に努め、良好な河川環境の維持を図る必要があります。



水面に映る山並み（左岸18.3k付近での眺望）



生い茂る水際のヨシ（河口部付近）

(2) 地域との連携・協働による 河川環境の整備・保全の推進

流域住民の生活基盤や歴史・文化・風土を形成してきた阿賀野川の恵みを生かしつつ、自然環境と調和を図りながら、自然とのふれあい、環境学習ができる場として整備・保全を図る必要があります。

⑬河川利用・空間利用の推進

⑭不法係留船対策

⑬河川利用・空間利用の現状

・阿賀野川では、親水公園、水辺の楽校、水辺プラザ等が整備されており、多くの人々が利用しています。



阿賀野川ふれあい公園
(新潟市北区新崎)



阿賀野川緑地公園
(新潟市東区本所)



下里桜つつみ
(阿賀野市下里)



阿賀野川床固め公園
(新潟市秋葉区沢海)



水辺プラザ
(新潟市秋葉区金屋)



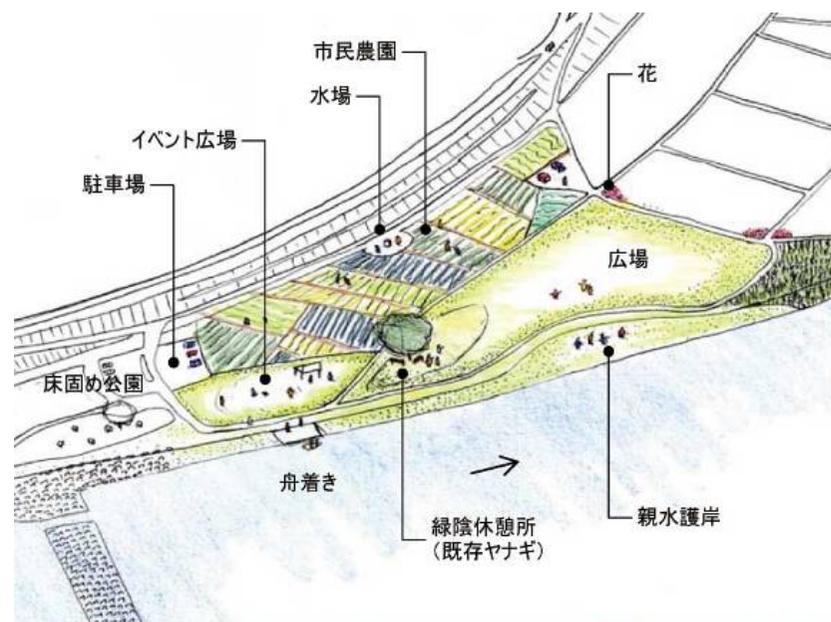
阿賀野川河川公園
(阿賀野市砂山)

⑬河川利用・空間利用の推進

- ・「かわまちづくり支援制度」を活用し、沿川自治体や地域住民と連携・協働して河川利用及び空間利用を推進する必要があります。
- ・「新潟市かわまちづくり計画」の一環である「阿賀野川フラワーライン整備事業」に対し、ハード面及びソフト面から支援していきます。



阿賀野川フラワーライン整備箇所

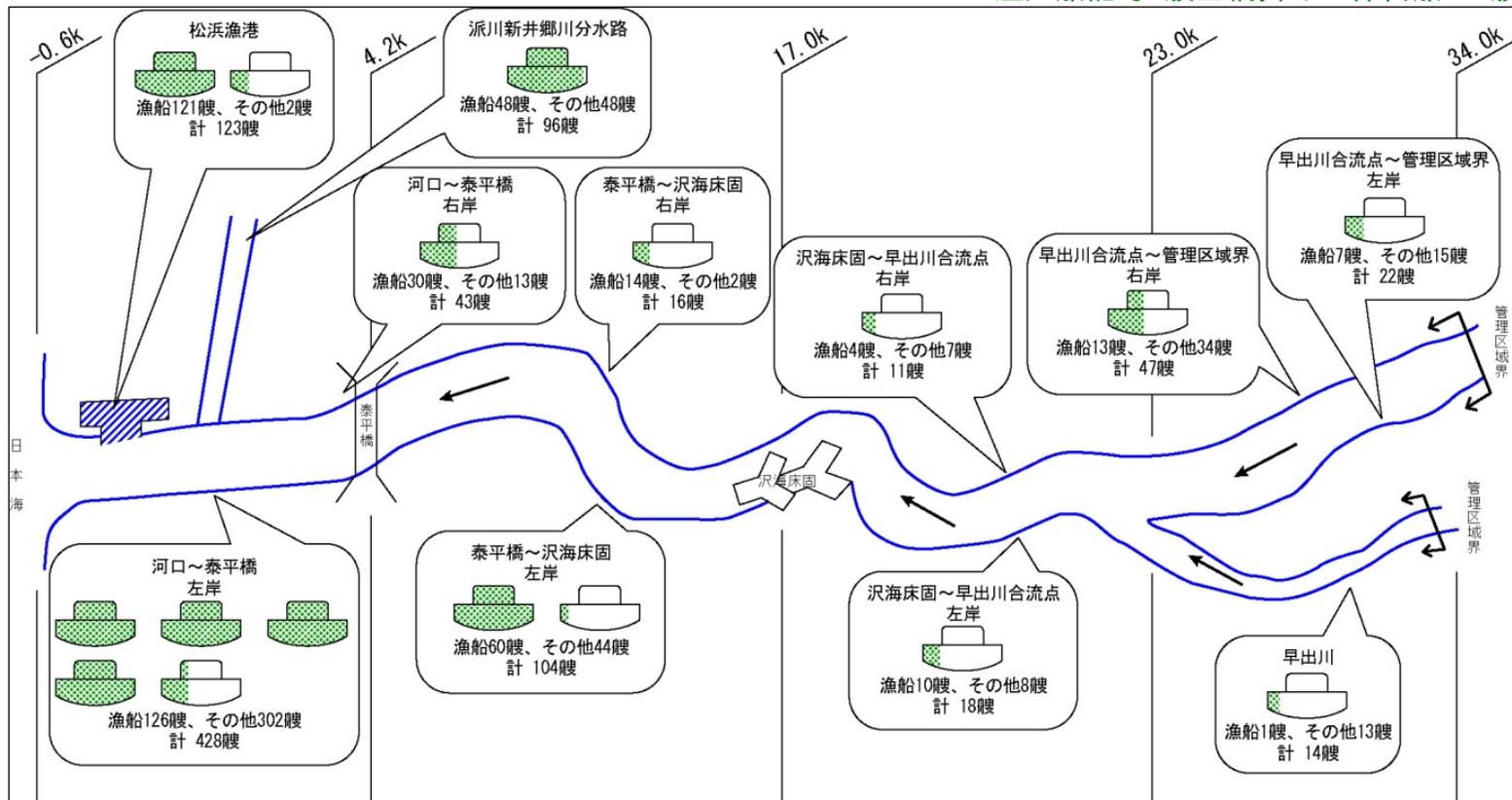


レクリエーションゾーン (イメージ図)

⑭ 不法係留船の現状と課題

- ・河口部にプレジャーボート等の不法係留がみられます。
- ・不法係留船や係留施設は、洪水の安全な流下の障害となり、治水と環境（景観）に悪影響を及ぼすことが懸念されています。

注) 船記号1艘全網掛け=係留船100艘分



920艘
不法係留船総数

平成18年度 係留船全国調査より

⑭不法係留船への対応

- ・放置船や係留船に対する是正看板を設置し、不法係留防止を促していきます。
- ・「信濃川・阿賀野川下流域水面利用協議会」などで協議していく必要があります。



放置船・不法係留船の状況（左岸1.2k付近）



是正看板の設置（平成19年1月）

4. 河川の維持管理に関する事項

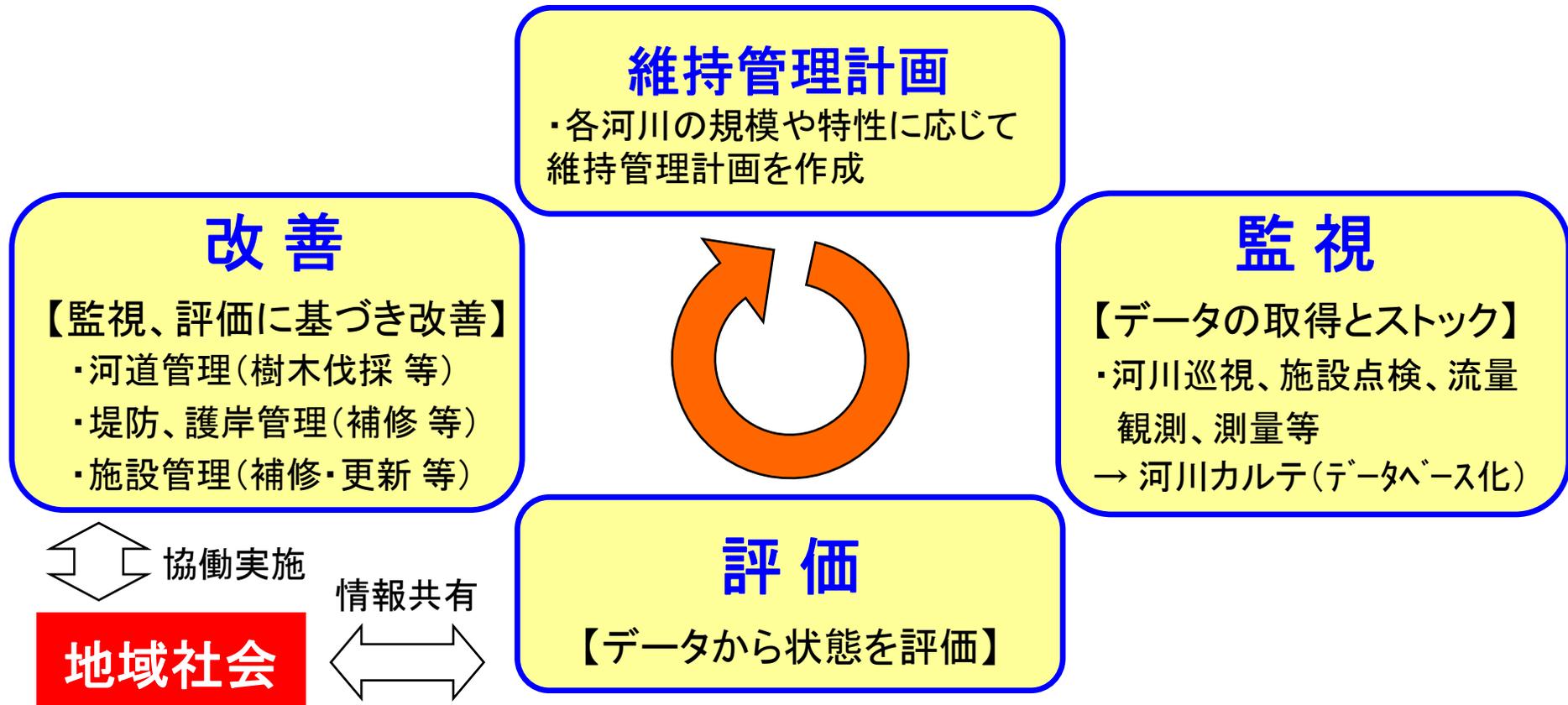
河道や河川管理施設等が本来の機能を発揮できるよう、施設の現状を的確に把握するとともに、状況に応じた改善を行い、「治水」「利水」「環境」の目的の達成を持続させる必要があります。

⑮ サイクル型維持管理

⑯ 地域住民と連携・協働した河川管理の推進

⑮ サイクル型維持管理の実施

・阿賀野川の河川特性を十分に踏まえ、洪水時や渇水時だけでなく平常時から阿賀野川の有する機能が十分発揮されるよう、河川管理上の重点箇所や実施内容など具体的な維持管理の計画を作成するとともに、河川の状態変化の監視、状態の評価、評価結果に基づく改善を一連のサイクルとした「サイクル型維持管理」により効率的・効果的に実施する必要があります。



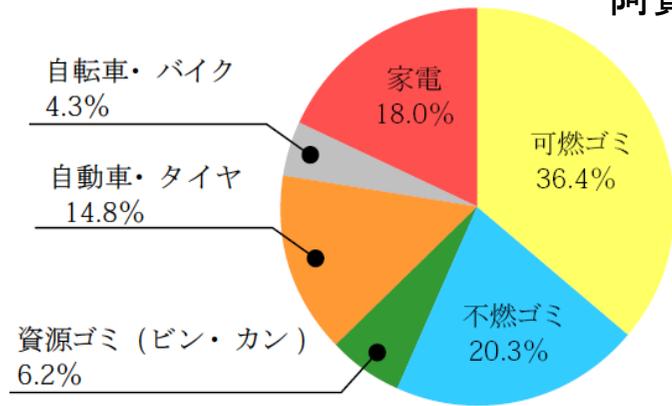
サイクル型維持管理計画のイメージ

⑩ ゴミ不法投棄の現状と課題

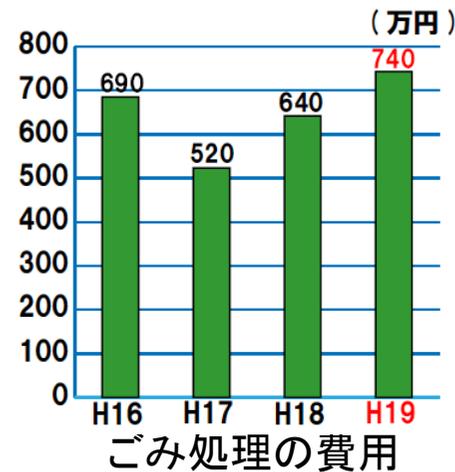
・阿賀野川では、随所に不法投棄されたゴミの処理に毎年多額の公費が使用されているため、不法投棄防止を促していきます。



阿賀野川ゴミマップ (平成19年度)



種類別ごみ投棄割合 (平成19年度)



ごみ処理の費用



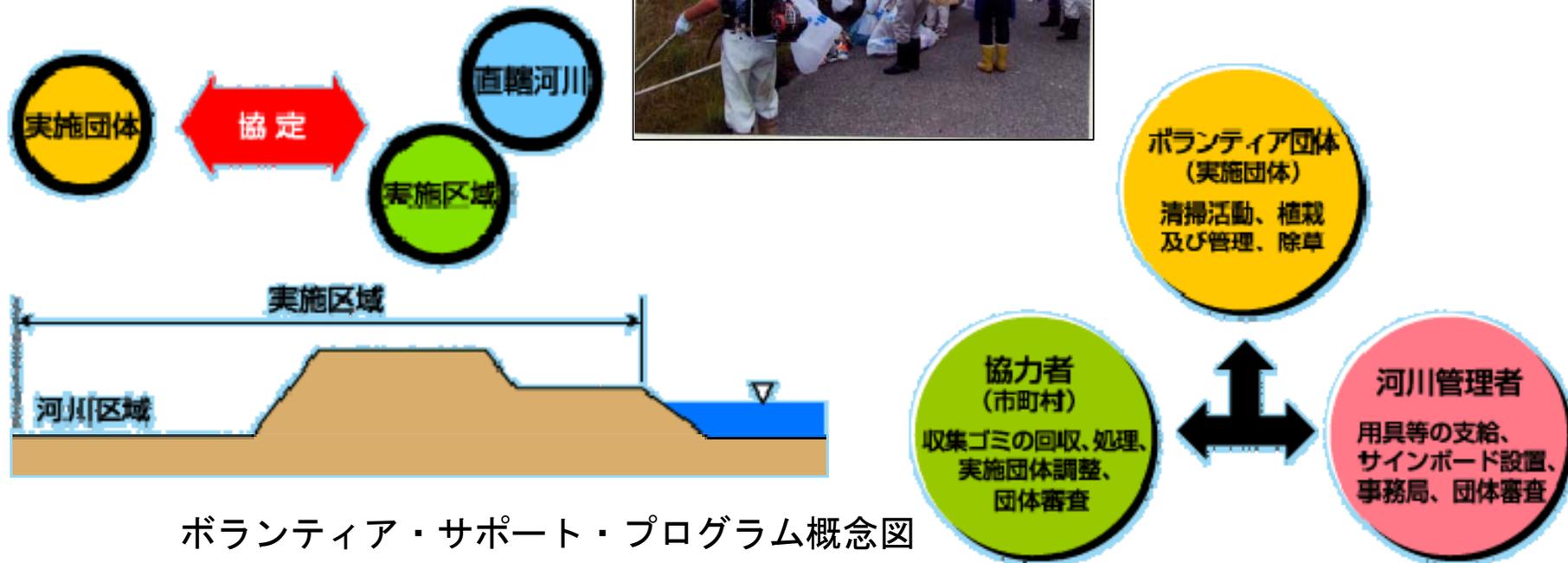
ごみの不法投棄の状況

⑩地域住民と連携・協働した河川管理の推進

・「ボランティア・サポート・プログラム(仮称)」などを活用して、地域住民と連携・協働した河川管理の推進が必要です。



地域ボランティア団体による清掃活動



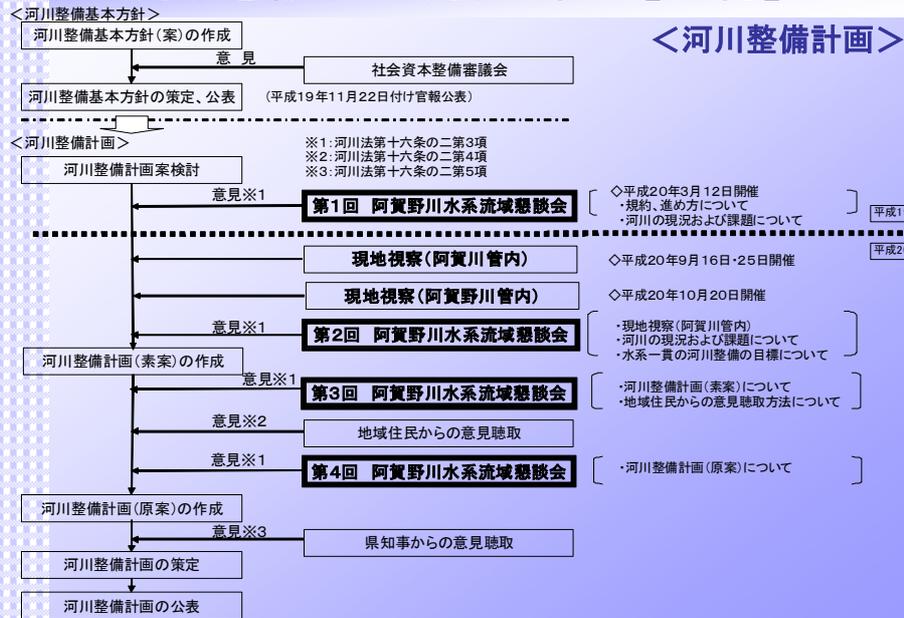
第 2 回流域懇談会 (H20.11.20)

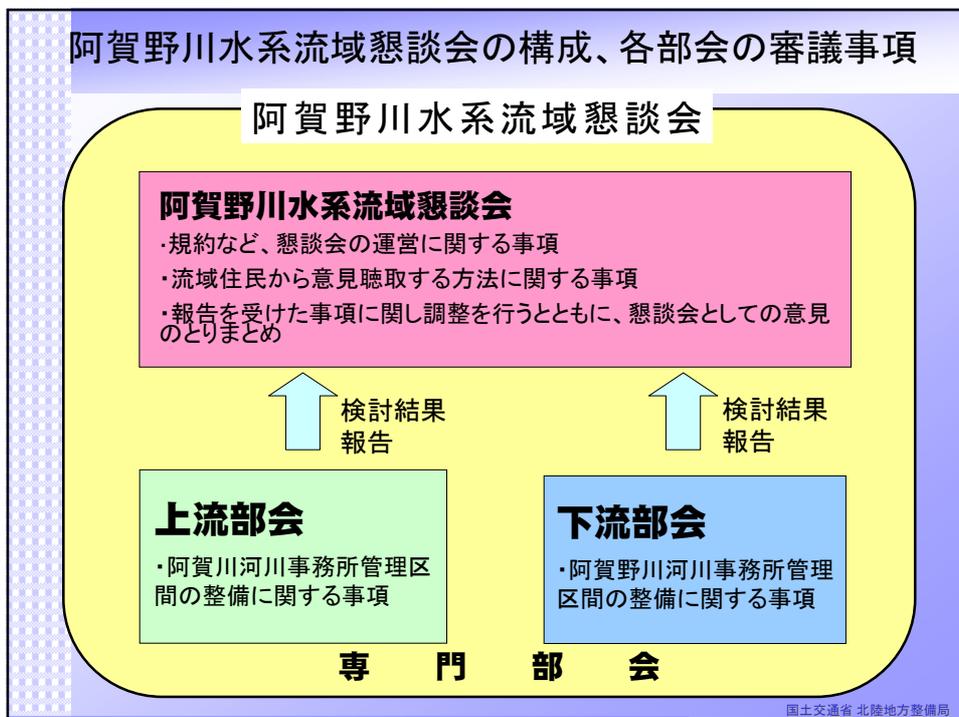
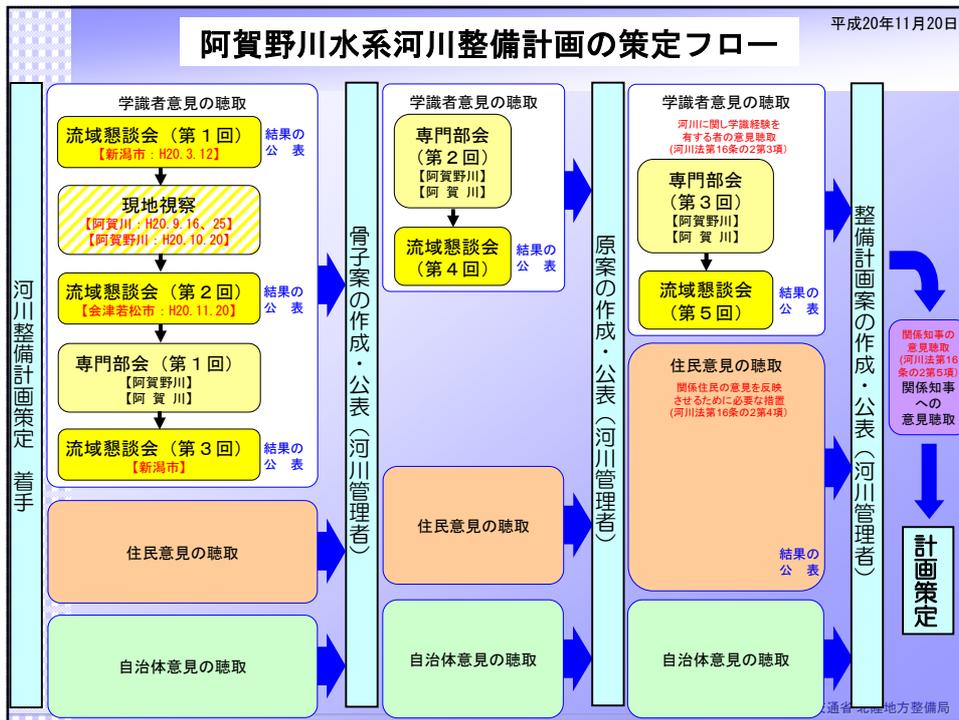
配付資料

- 今後の流域懇談会の進め方について
- 住民への意見聴取方法について
- 流域の現状と課題を踏まえた今後の議論の進め方について

今後の流域懇談会の進め方について

◆ 流域懇談会の流れ(案) 【当初】





阿賀野川水系流域懇談会 専門部会 委員(案)

【上流部会】

氏名	所属・役職 専門分野	
阿部 護郎	会津南部土地改良区連合 理事長	農業利水
冠木 忠之	(財)日本野鳥の会 会津支部	自然環境(鳥類)
菅家 一郎	会津治水事業促進期成同盟会 会長	地域社会
齊藤 梅朗	NPO 法人 会津阿賀川流域ネットワーク 理事長	地域づくり
坂下 論	福島県植物研究会	自然環境(植物)
長林 久夫	日本大学 工学部 教授	河川工学
中村 玄正	日本大学工学部 学術フロンティア事業研究員 (日本大学工学部前教授)	水質・水環境
成田 宏一	会津生物同好会	自然環境(魚介類)
野口 信一	会津若松市立会津図書館 館長	歴史・文化・文芸・教育
古川 仁志	電源開発(株) 東日本支店 支店長代理	エネルギー
馬淵 義雄	塩川町商工会長	観光・地域経済

【下流部会】

氏名	所属・役職 専門分野	
阿部 學	ラプタージャパン(日本猛禽類研究機構) 理事長	自然環境(鳥類)
伊藤 充	新潟市立新潟小学校 校長	歴史・文化・文芸・教育
鹿島 武司	新潟県内水面漁業協同組合連合会 専務理事	内水面漁業
紙谷 智彦	新潟大学 農学部 自然科学系 教授	自然環境(植物)
齋藤 吉平	麒麟山酒造(株) 代表取締役会長	観光・地域経済
佐々木 富夫	元新潟市消防団 団長	防災・危機管理
清水 重蔵	ビュー福島潟 館長	地域づくり
永山 庸男	新潟大学大学院 技術経営研究科 技術経営講座 教授	経営学
細山田 得三	長岡技術科学大学 工学部 准教授	河川工学
天野 市榮	阿賀野川治水協会 会長	地域社会
本間 義治	新潟大学 名誉教授	自然環境(魚介類)
松田 昭悦	阿賀用水右岸土地改良区連合 理事長	農業水利
三沢 眞一	新潟大学 農学部 教授	農業土木
山田 正	中央大学 理工学部 教授	河川工学
渡辺 英美子	新潟日報社 情報文化センター 情報文化部長兼論説委員	歴史・文化・文芸・教育

国土交通省 北陸地方整備局

住民への 意見聴取方法について

河川整備計画策定の各段階における 住民意見聴取の目的

意見聴取	目的
検討着手 段階	<ul style="list-style-type: none">・ 今後の整備計画策定の取組みについて住民へ知らせる・ 今後の阿賀野川に対する幅広い意見をもらう。 → 課題、議論の方向性について骨子案策定時の参考とする。
骨子案 段階	<ul style="list-style-type: none">・ 骨子案の内容を広く住民に知らせる・ 骨子案及び原案策定に対する意見をもらう。
原案 段階	<ul style="list-style-type: none">・ 原案及びこれまでの意見聴取結果を知らせる。・ 原案に対する意見を聴取する。・ 阿賀野川流域の意見を集約していく。

阿賀野川における意見聴取方法(案)

種 類	具体的方法(メニュー)
説明会等を開催して意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会等での意見聴取(流域市町村の公共施設) ・パネル展(イベント併設、流域市町村内の集客施設等)
既存の施設や広報媒体を利用した意見募集	<ul style="list-style-type: none"> ・縦覧コーナー設置による意見募集 (阿賀野川河川事務所、阿賀川河川事務所、沿川市町村役場等) ・インターネット等による意見募集 (事務所HPへの掲載し、関係機関HPにリンク)
※取り組み内容や説明会等の事前広報	<ul style="list-style-type: none"> ・記者発表、自治体広報誌への掲載 ・事務所HPへの掲載 ・縦覧コーナー、イベント等での掲示 など

流域の現況と課題を踏まえた 今後の議論の進め方について

河川整備計画の内容（案）

第1章では支川を含めた流域全体を対象とし、
第2章以降は直轄管理区間を対象とする

第1章 流域の概要

第2章 河川の現状と課題

⇒今回議論して頂く内容

第3章 河川整備の目標に関する事項

第1節 河川整備の基本理念

第2節 計画対象区間

第3節 計画対象期間

→次ページに記載

第4節 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標

第5節 河川の適切な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

第6節 河川環境の整備と保全に関する目標

第4章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川の整備の実施に関する基本的事項

第2節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要

第3節 河川の維持の目的、種類及び施工の場所

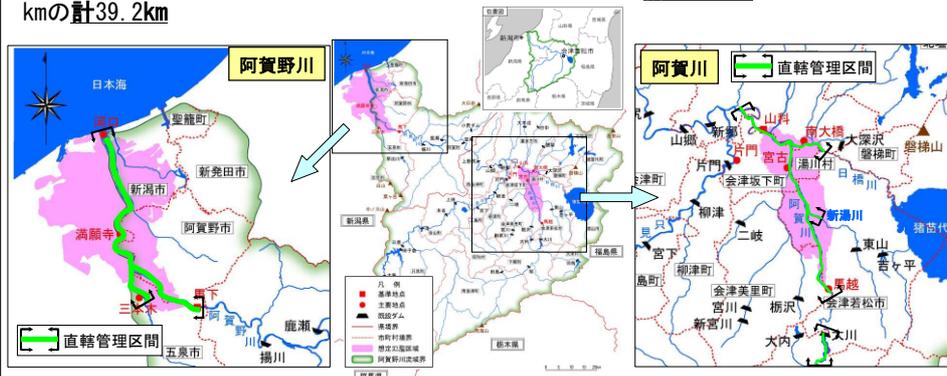
◆計画対象区間及び期間◆

計画対象区間

【阿賀野川】
直轄管理区間である河口から馬下までの阿賀野川本川34.6km、支川の早出川4.6kmの計39.2km

【阿賀川】

直轄管理区間である長井橋下流～馬越堰堤までの阿賀川本川31.6km、支川の日橋川6.6km、湯川2.2km、及び大川ダム等11.55kmの計51.95km



計画対象期間

概ね30年間

◆現状と課題(治水)◆

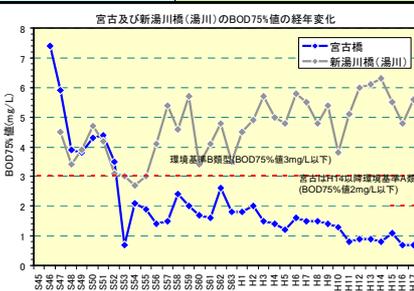
阿賀川

現 状		課 題
量の確保	一部の区間で堤防断面が不足	弱小堤の解消
	流下能力上のネック箇所の存在 (下流狭窄部区間、新湯川洗堰地点)	ネック部の解消
	川幅・低水路幅が狭く、樹木の繁茂により河積が不足する区間が存在	断面不足の解消
質の確保	浸透に対して弱い堤防の存在	堤防の強化
	河岸侵食・河床洗掘による危険箇所の存在	水衝部の強化
減災(ソフト)対策	氾濫被害の軽減のための水防、防災意識の希薄化	防災情報の高度化、避難体制の確立、防災拠点の活用
維持管理	河川管理施設の老朽化・機能維持 河道内樹木の樹林化	河川管理施設の維持 樹木管理

◆現状と課題(利水)◆

阿賀川

現 状		課 題
水利用	かんがい用水、水道用水、工業用水として利用	合理的な水利用の促進 関係機関との連携
	渇水の多発	関係機関との連携、大川ダムによる補給
水質	本川水質（BOD75%値）は環境基準を満足	支川における水質の改善
	新潟川の水質改善を図るべく、清流ルネッサンスIIとして対策を実施	



◆現状と課題(自然環境・空間利用)◆

阿賀川

現 状		課 題
自然環境	ワンド、細流・湧水群など多様な地形により、多様な動植物の生息・生育環境を形成	「阿賀川らしさ」を形成している環境の保全 多自然川づくり
	磐梯山など雄大な自然景観および歴史的資源に恵まれている	河川景観の維持
空間利用	カヌー、釣りや水遊びなど多くの人々が利用	河川空間利活用の促進 継続的な環境学習等、河川環境の理解の促進
	水辺の楽校などの整備が進むとともに、河川のイベントなどが開催されている。	
河川管理	ごみの不法投棄 地域住民による河川愛護活動 自治体、NPOによる清掃活動	地域住民との連携・協働した河川管理の推進
地域との連携	市民団体による川の指導者育成、河川環境保全活動	市民団体等との連携による河川愛護精神の高揚・強化

◆現状と課題(治水)◆		阿賀野川
現 状		課 題
量の確保	無堤区間、堤防断面不足の存在	無堤区間、弱小堤の解消
	流下断面が小さいと共に、樹木の繁茂により河積が不足する区間の存在	断面不足の解消
	流下能力上のネック箇所の存在 (床固め、JR羽越本線橋梁)	ネック部の解消
	河口砂州の発達、形状変化による被災	河口部対策
質の確保	浸透、地震、漏水に対し弱い堤防の存在、地盤圧密沈下による堤防形状の変化、旧河道上の堤防	堤防の強化、地盤沈下対策
	水衝部や床固下流の局所洗掘による危険箇所の存在	水衝部の強化、河床の維持
減災(ソフト)対策	氾濫被害軽減のための水防、防災意識の希薄化	防災情報の高度化、避難体制の確立、防災拠点の活用
維持管理	河川管理施設の老朽化・機能維持 河道内樹木の樹林化 砂利採取の減少により土砂動態は小康状態	河川管理施設の維持、樹木管理 総合土砂管理

◆現状と課題(利水)◆		阿賀野川
現 状		課 題
水利用	かんがい用水、水道用水、工業用水として利用	合理的な水利用の促進、関係機関との連携
	正常流量に対して不足は生じていない	現状の流況の維持
水質	水質は環境基準(BOD75%値)を満足 塩水の遡上	良好な水質の維持
	油脈からの油流出	

阿賀野川頭首工上流地点における流況の経年変化

阿賀野川馬下橋地点における水質(BOD)の経年変化

◆現状と課題(自然環境・空間利用)◆		阿賀野川
現 状		課 題
自然環境	扇頂部から河口まで多様な動植物の生息・生育環境を形成 外来種の繁茂	豊かな自然環境の保全、多自然川づくり 拡大防止
	構造物により魚介類の行き来が困難	遡上降下の確保
	広大な水面を有した雄大な河川景観を形成	雄大な河川景観の維持
空間利用	散策、スポーツ、釣りや水遊び舟運など多くの人々が利用 水辺の楽校、水辺プラザ、桜堤の利活用 公園等多くの河川占用	適正・多様な空間（水面）利活用の促進、環境学習の場としての活用 合法的占用
	河口部におけるプレジャーボート等の不法係留	積極的かつ秩序ある利活用の拡大
河川管理	ごみの不法投棄 地域住民による河川愛護活動 自治体、NPOによる清掃活動	地域住民との連携・協働した河川管理の推進